

サムエル 記第二

¹ サウルの死後、ダビデはアマレク人を打ち破って帰り、ツィクラグに二日間とどまっていた。

² 三日目に、見よ、サウルの陣営から一人の男がやって来た。その服は裂け、頭には土をかぶっていた。彼はダビデのところに来ると、地に伏して敬意を表した。

³ ダビデが彼に、「あなたはどこから来たのか」と言うと、

彼は、「イスラエルの陣営から逃れて来ました」と答えた。

⁴ ダビデは彼に言った。「どうなったのか。どうか、わたしに告げなさい。」

彼は答えた。「民は戦いから逃げ去り、民の多くが倒れて死にました。サウルとその息子ヨナタンも死にました。」

⁵ ダビデは、その知らせを告げた若者に言った。「サウルとその息子ヨナタンが死んだと、どうして分かるのか。」

⁶ その知らせを告げた若者は言った。「わたしがたまたまギルボア山にいたとき、見よ、サウルは自分の槍に寄りかかっており、見よ、戦車と騎兵が彼に迫っていました。」

⁷ 彼が後ろを振り向いてわたしを見つけ、わたしを呼びました。わたしは『ここにおります』と答えました。

⁸ 彼が『あなたは何者か』と言うので、わたしは『アマレク人です』と答えました。

⁹ すると彼はわたしに、『どうか、わたしのそばに立って、わたしを殺してくれ。命はまだあるが、

苦痛がわたしを捕らえているからだ』と言いました。

10 そこでわたしは彼のそばに立ち、彼を殺しました。彼が倒れた後は生き延びられないと確信したからです。わたしは彼の頭にあった王冠と、腕にあった腕輪を取り、ここに、わが君のもとに持って来ました。」

11 するとダビデは自分の服をつかんで引き裂いた。彼とともにいたすべての男たちも同じようにした。

12 彼らは、サウルとその息子ヨナタンのため、主*の民のため、そしてイスラエルの家のために、夕暮れまで悼み、泣き、断食した。彼らが剣に倒れたからである。

13 ダビデは、その知らせを告げた若者に言った。「あなたはどこの出身か。」

彼は答えた。「わたしは在留外国人の息子、アマレク人です。」

14 ダビデは彼に言った。「なぜあなたは、主が油注がれた者を滅ぼすために手を伸ばすことを恐れなかったのか。」

15 ダビデは若者の一人を呼んで言った。「近寄って、彼を切り倒せ。」その若者が彼を打つと、彼は死んだ。

16 ダビデは彼に言った。「あなたの血はあなたの頭に帰るように。あなたの口が、『わたしは主が油注がれた者を殺した』と言って、あなた自身に不利な証言をしたからである。」

17 ダビデは、サウルとその息子ヨナタンについて、この哀歌を歌って悼んだ。

* 1:12 1:12 すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来

- 18 彼はユダの子らに弓の歌を教えるように命じた。見よ、それはヤシャルの書に記されている。
- 19 「イスラエルよ、あなたの栄光は、あなたの高い所で殺された。
勇士たちはなんと倒れてしまったことか。
- 20 ガテでそれを告げてはならない。
アシュケロンの通りでそれを広めてはならない。
- ペリシテ人の娘たちが喜ばないように、
無割礼の者たちの娘たちが勝ち誇らないように。
- 21 ギルボアの山々よ、
あなたがたの上に露も雨も降るな。ささげ物の畑もあるな。
そこで勇士たちの盾が汚され、投げ捨てられたからだ。
サウルの盾は油を塗られていなかった。
- 22 殺された者たちの血から、
勇士たちの脂肪から、
ヨナタンの弓は退かず、
サウルの剣はむなしく帰ることがなかった。
- 23 サウルとヨナタンは、生きている間、愛され、
喜ばしい者であった。
死ぬ時にも、彼らは離されなかった。
- 彼らは驚よりも速く、
獅子よりも強かった。
- 24 イスラエルの娘たちよ、サウルのために泣け。
彼はあなたがたに鮮やかな紅の服を着せ、
あなたがたの服に金の飾りを着けさせた。
- 25 戦いのただ中で、勇士たちはなんと倒れてしまったことか。
ヨナタンはあなたの高い所で殺された。
- 26 わたしの兄弟ヨナタンよ、わたしはあなたのことで深く悲しんでいる。

あなたはわたしにとって、非常に喜ばしい者であつた。

あなたのわたしへの愛はすばらしく、

女たちの愛に勝るものであつた。

27 勇士たちはなんと倒れてしまったことか。

そして戦いの武器は滅び失せた。」

2

1 この後、ダビデは主に伺つて言った。「ユダの町々のどれかに上って行くべきでしょうか。」主は彼に言われた。「上って行きなさい。」ダビデは言った。「どこへ上って行くべきでしょうか。」主は言われた。「ヘブロンへ。」

2 そこでダビデはそこへ上って行つた。彼の二人の妻、エズレル人アヒノアムと、カルメル人ナバルの妻であつたアビガイルも一緒であつた。

3 ダビデは自分とともにいた部下たちも、それぞれの家族とともに連れ上つた。彼らはヘブロン

の町々に住んだ。

4 ユダの人々が来て、そこでダビデに油を注ぎ、ユダの家の王とした。人々はダビデに、「サウルを葬つたのはヤベシュ・ギレアデの人々です」と告げた。

5 ダビデはヤベシュ・ギレアデの人々に使者を遣わして言った。「あなたがたは、自分たちの主君サウルにこの慈しみを示し、彼を葬りました。あなたがたが主によって祝福されますように。

6 今、主があなたがたに慈しみと真実を示してくれますように。あなたがたがこのことを行つたので、わたしもまた、この慈しみに報います。

7 だから今、あなたがたの手を強くし、勇敢でありなさい。あなたがたの主君サウルは死に、ユダの家はわたしに油を注いで彼らの王としたからです。」

8 さて、サウルの軍の長であるネルの息子アブネルは、サウルの息子イシュボシェテを連れてマハナインへ渡っていた。

9 彼はイシュボシェテを、ギレアド、アシュル人、エズレル、エフライム、ベニヤミン、そして全イスラエルの王とした。

10 サウルの息子イシュボシェテがイスラエルを治め始めたとき、彼は四十歳で、二年間統治した。しかし、ユダの家はダビデに従った。

11 ダビデがヘブロンでユダの家を治めた期間は、七年六か月であった。

12 ネルの息子アブネルと、サウルの息子イシュボシェテのしもべたちは、マハナインからギベオンへ出て行った。

13 ツェルヤの息子ヨアブとダビデのしもべたちも出て行き、ギベオンの池のそばで彼らと出会った。一方は池のこちら側に、他方は池の向こう側に座った。

14 アブネルはヨアブに言った。「どうか、若者たちを立たせて、われわれの前で競わせようではないか。」ヨアブは言った。「立たせよう。」

15 そこで彼らは立ち上がり、数にしたがって進み出た。ベニヤミンとサウルの息子イシュボシェテのために十二人、ダビデのしもべたちから十二人であった。

16 彼らはそれぞれ相手の頭をつかみ、剣を相手のわき腹に突き刺したので、ともに倒れた。それゆえ、ギベオンにあるその場所はヘルカテ・ハツリム*と呼ばれた。

17 その日の戦いは非常に激しく、アブネルとイスラエルの人々はダビデのしもべたちの前に打ち負かされた。

* 2:16 2:16 「ヘルカテ・ハツリム」は「短剣の野」を意味する。

18 そこにはツエルヤの三人の息子、ヨアブ、アビシヤイ、アサエルがいた。アサエルは野のガゼルのように足が速かった。

19 アサエルはアブネルの後を追ひ、アブネルを追うことから右にも左にもそれなかった。

20 するとアブネルは後ろを振り向いて言った。「それはあなたか、アサエル。」彼は答えた。「わたしです。」

21 アブネルは彼に言った。「右か左にそれで、若者の一人を捕らえ、その武具を奪え。」しかし、アサエルは彼を追うことからそれようとはしなかった。

22 アブネルは再びアサエルに言った。「わたしを追うのをやめて、引き返せ。なぜ、わたしがあなたを地面に打ち倒さなければならないのか。そうならば、どうしてあなたの兄弟ヨアブに顔向けできようか。」

23 しかし、彼はそれることを拒んだ。そのため、アブネルは槍の石突きで彼の腹を刺し、槍は背中に突き抜けた。彼はそこで倒れ、その場で死んだ。アサエルが倒れて死んだ場所に来た者は皆、立ち止まった。

24 しかし、ヨアブとアビシヤイはアブネルを追った。彼らがギベオンの荒野へ向かう道沿いの、ギアの前にあるアンマの丘に来たとき、太陽が沈んだ。

25 ベニヤミンの子らはアブネルの後ろに集まって一つの隊となり、丘の頂に立った。

26 その時、アブネルはヨアブに呼びかけて言った。「剣はいつまでも食い尽くすのか。最後には苦い結末になることを、あなたは知らないのか。民に、自分たちの兄弟を追うのをやめて戻ろう命じるまで、どれほどかかるのか。」

27 ヨアブは言った。「神[†]は生きておられる。もしあなたが語っていなかったなら、民は朝には去って、それぞれ兄弟を追うことはなかっただろう。」

28 そこでヨアブは角笛を吹き鳴らした。すると民は皆立ち止まり、もはやイスラエルを追わず、戦うこともしなかった。

29 アブネルとその部下たちはその夜通しアラバを進み、ヨルダン川を渡り、ビトロン全域を通してマハナイムに着いた。

30 ヨアブはアブネルを追うことから戻った。彼が民をすべて集めると、ダビデの部下十九人とアサエルが欠けていた。

31 しかし、ダビデのしもべたちはベニヤミン人とアブネルの部下たちを打ったので、三百六十人が死んだ。

32 彼らはアサエルを引き取り、ベツレヘムにある彼の父の墓に葬った。ヨアブとその部下たちは夜通し歩き、夜明けにヘブロンに着いた。

3

1 サウルの家とダビデの家の間には長い戦いがあった。ダビデはますます強くなり、サウルの家はますます弱くなっていった。

2 ヘブロンでダビデに息子たちが生まれた。長男はエズレル人アヒノアムによるアムノン、

3 次男はカルメル人ナバルの妻アビガイルによるキルアブ、三男はゲシュルの王タルマイの娘マアカの息子アブサロム、

4 四男はハギテの息子アドニヤ、五男はアビタルの息子シェファテヤ、

[†] 2:27 2:27 「神」と訳されたヘブル語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。

5 六男はダビデの妻エグラによるイトレームであった。これらがヘブロンでダビデに生まれた。

6 サウルの家とダビデの家の間に戦いがあった間、アブネルはサウルの家で自らを強くしていた。

7 さて、サウルには一人のそばめがおり、その名はアヤの娘リツパといった。イシュボシェテはアブネルに言った。「なぜ、あなたはわたしの父のそばめのところに入ったのか。」

8 するとアブネルは、イシュボシェテの言葉に激しく怒って言った。「わたしはユダに属する犬の頭なのか。今日までわたしは、あなたの父サウルの家、その兄弟たち、その友人たちに慈しみを示し、あなたをダビデの手に渡さなかった。それなのに今日、あなたはこの女に関する過ちでわたしを責めるのか。」

9 主がダビデに誓われたとおりのことを、わたしが彼のために行わないなら、神がアブネルにこのように行い、さらに重ねて罰せられるように。

10 すなわち、サウルの家から王国を移し、ダンからベエルシェバに至るまで、イスラエルとユダの上にダビデの王座を据えることである。」

11 イシュボシェテはアブネルを恐れたので、彼にひと言も言い返すことができなかった。

12 アブネルは自分の代わりにダビデへ使者を遣わして言った。「この地は誰のものでしょうか。わたしと契約を結んでください。見よ、わたしの手はあなたとともにあり、全イスラエルをあなたのもとに向かわせます。」

13 ダビデは言った。「良いだろう。わたしはあなたと契約を結ぶ。ただし、一つだけあなたに求めることがある。あなたがわたしの顔を見に来るときに

は、まずサウルの娘ミカルを連れて来なければ、わたしの顔を見ることはできない。」

14 そしてダビデはサウルの息子イシュボシエテへ使者を遣わして言った。「わたしがペリシテ人の百の包皮をもってめとった、わたしの妻ミカルをわたしに渡しなさい。」

15 そこでイシュボシエテは人を遣わし、ライシュの息子パルティエルである夫から彼女を取った。

16 彼女の夫は泣きながら彼女とともに歩き、バフリムまで彼女について行った。するとアブネルが彼に、「行け、帰れ」と言ったので、彼は帰って行った。

17 アブネルはイスラエルの長老たちと話し合っ
て言った。「以前、あなたがたはダビデがあなたが
たの王になることを求めていた。

18 それなら今、それを実行しなさい。主がダビデ
について、『わたしのしもべダビデの手によっ
て、わたしはわたしの民イスラエルをペリシ
テ人の手から、またすべての敵の手か
ら救い出す』と語られたからである。」

19 アブネルはまたベニヤミン人の耳にも語っ
た。そしてアブネルは、イスラエルとベニヤミン
の全家にとって良いとされたことすべてを、ヘブロ
ンにいるダビデの耳にも語るために行った。

20 こうしてアブネルは二十人の者を連れて、ヘブ
ロンのダビデのところに来た。ダビデはアブネル
と、彼とともにいた者たちのために宴会を催した。

21 アブネルはダビデに言った。「わたし
は立ち上がって行き、全イスラエルをわが君、王の
もとに集めます。彼らがあなたと契約を結び、あな
たが魂の望むとおりにすべてを治めるため
です。」ダビデはアブネルを送り出し、彼は無
事に去って行った。

22 見よ、ダビデのしもべたちとヨアブが略奪から帰り、多くの戦利品を持ち帰った。しかしアブネルは、ヘブロンのダビデのもとにはいなかった。ダビデが彼を送り出し、彼が無事に去って行ったからである。

23 ヨアブと、彼とともにいたすべての軍勢が帰って来たとき、人々はヨアブに告げて言った。「ネルの息子アブネルが王のところに来ましたが、王は彼を送り出し、彼は無事に去って行きました。」

24 そこでヨアブは王のところに来て言った。「あなたは何ということをしたのですか。見よ、アブネルがあなたのところに来たのに、なぜ彼を送り出し、そのまま去らせてしまったのですか。」

25 あなたはネルの息子アブネルをご存じです。彼はあなたを欺き、あなたの出入りを知り、あなたのすることすべてを探るために来たのです。」

26 ヨアブはダビデのところから出て行くと、アブネルの後に使者を送り、シラの井戸から彼を連れ戻した。しかし、ダビデはそれを知らなかった。

27 アブネルがヘブロンに戻って来たとき、ヨアブは静かに話すために、彼を門の中ほどへ連れ出し、そこで彼の腹を刺して死なせた。これは彼の兄弟アサエルの血のためであった。

28 後になって、ダビデはそれを聞いて言った。「わたしとわたしの王国は、ネルの息子アブネルの血について、主の御前でとこしえに無罪である。」

29 それがヨアブの頭と、彼の父の全家に降りかかるように。ヨアブの家から、漏出を患う者、規定の病の者、杖にすぎる者、剣に倒れる者、パンに乏しい者が絶えることのないように。」

30 こうしてヨアブとその兄弟アビシヤイはアブネルを殺した。彼がギベオンでの戦いで、彼らの兄弟アサエルを殺したからである。

31 ダビデはヨアブと、彼とともにいたすべての民に言った。「あなたがたの服を引き裂き、粗布を腰にまとい、アブネルの前で泣き悲しめ。」ダビデ王は棺の後ろを歩いた。

32 彼らはアブネルをヘブロンに葬った。王はアブネルの墓で声を上げて泣き、民も皆泣いた。

33 王はアブネルのために哀歌を歌って言った。「アブネルは愚か者が死ぬように死ななければならなかったのか。

34 あなたの手は縛られず、あなたの足は足枷をはめられなかった。

不義の子らの前に倒れるように、あなたは倒れた。」

民は皆、彼のために再び泣いた。

35 まだ日のあるうちに、民は皆やって来てダビデにパンを食べよう勧めた。しかしダビデは誓って言った。「太陽が沈む前に、わたしがパンやほかの何かを味わうようなことがあれば、神がわたしにこのように行い、さらに重ねて罰せられるように。」

36 民は皆これに気づき、それを良いとした。王がしたことはすべて、すべての民に良いとされたのである。

37 その日、すべての民と全イスラエルは、ネルの息子アブネルを殺したのが王によるものではなかったことを理解した。

38 王は家来たちに言った。「今日、イスラエルにおいて、一人の君主であり、偉大な人物が倒れたことを、あなたがたは知らないのか。

39 わたしは油注がれた王であるとはいえ、今日は弱い。ツエルヤの息子たちであるこれら

の者は、わたしには手に負えない。
主が悪を行う者に、その惡にしたがって報いてくださるように。」

4

¹ サウルの息子は、アブネルがヘブロンで死んだことを聞くと、その手は弱り、イスラエル人は皆動揺した。

² サウルの息子には、略奪隊の隊長である二人の者がいた。一人の名はバアナ、もう一人の名はレカブといい、ベニヤミンの子らであるベエロテ人リンモンの息子たちであった。ベエロテもベニヤミンの一部とみなされていたからである。

³ またベエロテ人はギタイムに逃げ、今日に至るまでそこで寄留者として住んでいる。

⁴ さて、サウルの息子ヨナタンには、両足の不自由な息子が一人いた。サウルとヨナタンについての知らせがエズレルから届いたとき、彼は五歳であった。彼の乳母は彼を抱き上げて逃げた。急いで逃げる際に彼は落ち、足が不自由になった。彼の名はメフィボシエテであった。

⁵ ベエロテ人リンモンの息子レカブとバアナは出かけて行き、日中の一番暑いころ、イシュボシエテが昼寝をしているときに彼の家に来た。

⁶ 彼らは小麦を取りに来たかのようにして家の中ほどに入り、彼の腹を刺した。それからレカブと彼の兄弟バアナは逃げた。

⁷ 彼らが家に入ったとき、イシュボシエテは寝室の寝台で横になっていた。彼らは彼を打って殺し、その首をはね、その首を取って、夜通しアラバの道を通って行った。

⁸ 彼らはイシュボシエテの首をヘブロンのだビデのところに持って来て、王に言った。「見よ、あな

たの命を狙っていたあなたの敵サウルの息子、イシュボシエテの首です。主は今日、わが君、王のために、サウルとその子孫*に復讐されました。」

⁹ ダビデは、ベエロテ人リンモンの息子レカブとその兄弟バアナに答えて言った。「すべての逆境からわたしの魂を贖ってくださった主は生きておられる。

¹⁰ かつて『見よ、サウルは死んだ』とわたしに告げ、自分が良い知らせを持って来たと思った者を、わたしは捕らえてツィクラグで殺した。それが、その知らせに対してわたしが与えた報いであった。

¹¹ まして、悪者どもが義人をその人自身の家の寝台の上で殺したのだから、なおさらのこと、今、わたしはあなたがたの手から彼の血の責任を問い、あなたがたを地から取り除くべきではないか。」

¹² ダビデは若者たちに命じ、彼らはその二人を殺し、彼らの手と足を切り落とし、ヘブロンの池のそばに吊るした。しかし、イシュボシエテの首は取って、ヘブロンにあるアブネルの墓に葬った。

5

¹ その後、イスラエルのすべての部族がヘブロンのダビデのもとに来て、言った。「見よ、われわれはあなたの骨であり、あなたの肉です。

² 昔、サウルがわれわれの王であったとき、イスラエルを率いて出入りしたのはあなたでした。主はあなたに、『あなたがわたしの民イスラエルの牧者となり、あなたがイスラエルの君主となる』と言われました。」

* 4:8 4:8 または「種」。

3 こうして、イスラエルのすべての長老たちがヘブロンヘブロンの王のもとに来た。ダビデ王はヘブロンで、主の御前に彼らと契約を結び、彼らはダビデに油を注いでイスラエルの王とした。

4 ダビデは治め始めたとき三十歳で、四十年間統治した。

5 彼はヘブロンで七年六か月の間ユダを治め、エルサレムで三十三年の間、全イスラエルとユダを治めた。

6 王とその部下たちは、この地の住民であるエブス人を攻めるためにエルサレムへ行った。彼らはダビデに、「目の見えない者や足の不自由な者でも、あなたをここから締め出せる」と言った。彼らは「ダビデはここに入ることはできない」と考えたからである。

7 それでも、ダビデはシオンの要害を攻め取った。これがダビデの町である。

8 ダビデはその日、「エブス人を打つ者はだれでも、水路に上って行き、ダビデの魂が憎む、あの足の不自由な者や目の見えない者たちを打て」と言った。そのため人々は、「目の見えない者や足の不自由な者は、家に入ってはならない」と言う。

9 ダビデはその要害に住み、そこをダビデの町と呼んだ。ダビデはミロから内側にかけて、周囲に建て増していった。

10 ダビデはますます大いなる者となった。万軍の神である主が彼とともにおられたからである。

11 ツロの王ヒラムは、ダビデのもとに使者たちと、杉の木、大工、石工を送った。彼らはダビデのために家を建てた。

12 ダビデは、主が彼をイスラエルの王として確立し、ご自分の民イスラエルのために彼の王国を高められたことを悟った。

13 ダビデはヘブロンから来た後、エルサレムでさらに多くのそばめや妻をめとった。そして、ダビデにはさらに多くの息子と娘が生まれた。

14 エルサレムで彼に生まれた者たちの名は次のとおりである。シャムア、ショバブ、ナタン、ソロモン、

15 イブハル、エリシュア、ネフェグ、ヤフィア、

16 エリシャマ、エリアダ、エリフェレテ。

17 ペリシテ人は、人々がダビデに油を注いでイスラエルの王としたことを聞くと、皆ダビデを捜しに上って来た。ダビデはそれを聞いて、要害へ下って行った。

18 さて、ペリシテ人はやって来て、レファイムの谷に広がった。

19 ダビデが主に伺って、「ペリシテ人を攻めに上るべきでしょうか。あなたは彼らをわたしの手に引き渡してくださるでしょうか」と言うと、主はダビデに言われた。「上って行け。わたしは必ずペリシテ人をあなたの手に引き渡すからだ。」

20 ダビデはバアル・ペラツィムに行き、そこで彼らを打ち破った。そして彼は言った。

「水が突き破るように、主はわたしの前で敵を突き破られた。」そのため、彼はその場所の名をバアル・ペラツィム*と呼んだ。

21 彼らがそこに自分たちの偶像を置き去りにしたので、ダビデとその部下たちはそれらを持ち去った。

* 5:20 5:20 「バアル・ペラツィム」は「打ち破って出る主」を意味する。

22 ペリシテ人はまたもや上って来て、レファイムの谷に広がった。

23 ダビデが主に伺うと、主は言われた。「上って行ってはならない。彼らの背後に回り込み、桑の木の前から彼らを攻めよ。

24 桑の木の梢に行進の音が聞こえたなら、奮い立て。そのとき、主がペリシテ人の軍勢を打つために、あなたの前に出て行かれるからである。」

25 ダビデは主が命じられたとおりに行い、ゲバからゲゼルに至るまでペリシテ人を打ち破った。

6

1 ダビデは再びイスラエルの精鋭三万人をすべて集めた。

2 ダビデは立ち上がり、自分とともにいたすべての民を連れてユダのバアレから出発した。そこから、ケルビムの上に座しておられる万軍の主の御名、すなわちその御名によって呼ばれる神の箱を運び上るためであった。

3 彼らは神の箱を新しい車に載せ、丘の上にあるアビナダブの家から運び出した。アビナダブの息子であるウザとアヒオが、その新しい車を御していた。

4 彼らが丘の上にあるアビナダブの家から、神の箱とともにそれを運び出したとき、アヒオは箱の前を歩いていた。

5 ダビデとイスラエルの全家は、糸杉の木で作られたあらゆる楽器、豎琴、弦楽器、タンバリン、カスタネット、シンバルを鳴らして、主の御前で演奏していた。

6 彼らがナコンの打ち場に着いたとき、牛がつかずいたので、ウザは神の箱に手を伸ばし、それをつかんだ。

7 するとウザに対して主の怒りが燃え上がり、神はその過ちのゆえに、その場で彼を打たれた。彼はそこで神の箱の傍らで死んだ。

8 主がウザに対して激しく怒りを発せられたため、ダビデは不快に思った。そして彼はその場所をペレツ・ウザ* と呼び、今日に至っている。

9 その日、ダビデは主を恐れて言った。「どうして主の箱がわたしのところに来ることができようか。」

10 そのためダビデは、主の箱をダビデの町にある自分のところへ移そうとはせず、それをガテ人オベデ・エドム家に運び入れた。

11 主の箱はガテ人オベデ・エドム家に三か月とどまった。主はオベデ・エドムとその全家を祝福された。

12 「主は神の箱のゆえに、オベデ・エドムの家と彼に属するすべてのものを祝福された」とダビデ王に告げられた。ダビデは行って、神の箱をオベデ・エドム家からダビデの町へ、喜びをもって運び上った。

13 主の箱を担ぐ者たちが六歩進んだとき、彼は牛と肥えた子牛をいけにえとしてささげた。

14 ダビデは力の限り主の御前で踊った。ダビデは亜麻布のエポデを身に着けていた。

15 こうしてダビデとイスラエルの全家は、歓声を上げ、角笛を吹き鳴らして、主の箱を運び上った。

16 主の箱がダビデの町に入ってきたとき、サウルの娘ミカルは窓から見下ろし、ダビデ王が主の御前で跳ねたり踊ったりしているのを見て、心の中で彼をさげすんだ。

* 6:86:8 「ペレツ・ウザ」は「ウザに対する打ち破り」を意味する。

17 彼らは主の箱を運び入れ、ダビデがそのために張った天幕の中の定め場所に安置した。ダビデは主の御前に全焼のささげ物と和解のいけにえをささげた。

18 ダビデは全焼のささげ物と和解のいけにえをささげ終え、万軍の主の御名によって民を祝福した。

19 彼はすべての民、すなわちイスラエルの全群衆の男女一人ひとりに、パン一切れ、なつめやし、干しぶどうを分け与えた。そして民は皆、それぞれ自分の家に帰って行った。

20 それからダビデは自分の家族を祝福するために戻って来た。サウルの娘ミカルはダビデを出迎えるに出て来て言った。「今日のイスラエルの王は、なんと輝かしかったことでしょう。ならず者が恥じることもなく自分をさらけ出すように、ご自分の家来たちのはしためたちの目の前で、今日ご自分をさらけ出されるとは。」

21 ダビデはミカルに言った。「それは主の御前でのことだ。主はあなたの父よりも、またその全家よりもわたしを選び、主の民イスラエルの君主に任命してくださった。それゆえ、わたしは主の御前で喜び祝う。

22 わたしはこれよりもさらに卑しめられ、自分の目にも取るに足りない者となるだろう。しかし、あなたが話したそのはしためたちからは、わたしは敬われるだろう。」

23 サウルの娘ミカルには、死ぬ日まで子どもがなかった。

7

1 王が自分の家に住み、主が周囲のすべての敵から彼を休ませられたとき、

2 王は預言者ナタンに言った。「見よ、わたしは杉の家に住んでいるが、神の箱は幕の内にあ
る。」

3 ナタンは王に言った。「行って、あなたの心にあることをすべて行いなさい。主があなたとともに
おられるからです。」

4 その夜、主のことがナタンに臨んで言った。

5 「行って、わたしのしもベダビデに言え。

『主はこう言われる。「わたしが住むため
の家を、あなたが建てるというのか。

6 わたしはイスラエルの子らをエジプトか
ら導き上った日から今日に至るまで、家に住んだこ
とはなく、天幕や幕屋の中を移動してきた。

7 わたしがイスラエルのすべての子らとともに
に歩んできたすべての場所で、わたしの民イスラ
エルの牧者となるよう命じたイスラエルの部族のだれ
かに、『なぜわたしのために杉の家を建てなかった
のか』と、ひと言でも言ったことがあるだろう
か。』』

8 今、わたしのしもベダビデにこう言え。『万
軍の主はこう言われる。「わたしはあなた
を羊の囲いから、羊の群れの後ろから取って、わた
しの民イスラエルの上の君主とした。

9 あなたがどこへ行くにも、わたしはあなたとと
もにおり、あなたの前からすべての敵を断ち切っ
た。わたしは地上の偉大な者たちの名のような、
大いなる名をあなたに与える。

10 わたしはわたしの民イスラエルのために一つ
の場所を定め、彼らを植え付ける。彼らは自分たち
の場所に住み、もはや動かされることはない。不
義の子らが、初めのころや、わたしがわたしの民イ
スラエルの上に士師たちを命じた日以来のように、
彼らを苦しめることはもはやない。

11 わたしはあなたをすべての敵から休ませる。さらに主は、主があなたのために家を造るということを、あなたに告げる。

12 あなたの日々が満ち、あなたが父祖たちとともに眠りにつくとき、わたしはあなたの体から出るあなたの子孫を、あなたの後に立て、彼の王国を確立する。

13 彼はわたしの名のために家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえに確立する。

14 わたしは彼の父となり、彼はわたしの息子となる。彼が不義を犯すなら、わたしは人の杖と人の子らの鞭をもって彼を懲らしめる。

15 しかし、わたしの慈しみは彼から離れ去ることはない。わたしがあなたの前から退けたサウルから、それを取り去ったようにはならない。

16 あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえに確かなものとされる。あなたの王座はとこしえに確立される。』』』

17 ナタンはこれらのすべての言葉を、またこのすべての幻のとおり、ダビデに語った。

18 そこでダビデ王は中に入って主の御前に座り、こう言った。「主*

なる神よ。わたしが何者であり、わたしの家が何であるからといって、あなたはわたしをここまで導いてくださったのでしょうか。

19 主なる神よ、これはあなたの御目にはまだ小さなことでした。あなたはしもべの家について、はるか先のことまで語ってくださいました。主なる神よ、これが人に対するあなたの御心なのでしょうか。

20 ダビデはこれ以上、あなたに何を言えるでしょうか。主なる神よ、あなたはあなたのしもべを

* 7:18 7:18 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。

ご存じだからです。

21 あなたの言葉のゆえに、またあなた自身の御心にしたがって、あなたはあなたのしもべに知らせるために、このすべての偉大なことを行われました。

22 それゆえ、主なる神よ、あなたは大きい方です。わたしたちの耳で聞いたすべてのことによれば、あなたのような方はほかになく、あなたのほかに神はいないからです。

23 あなたがエジプトから贖い出してご自分の民とされたイスラエル、この地上の一つの国民のような者が、ほかにあるでしょうか。あなたはご自身のために名を上げ、彼らのために偉大なことを行い、あなたの地のために恐るべきことを行われました。これは、あなたがエジプトから、その国々とその神々から贖い出してご自分のものとされた、あなたの民の前で行われたのです。

24 あなたはご自分の民イスラエルを、とこしえにあなたの民として確立されました。そして主よ、あなたが彼らの神となりました。

25 今、主なる神よ。あなたがしもべとその家について語られた言葉を、とこしえに確かなものとし、あなたが語られたとおりに行ってください。

26 そうして、『万軍の主はイスラエルを治める神である』と言われて、あなたの御名がとこしえにあがめられますように。そして、あなたのしもべダビデの家が、あなたの御前に確立されますように。

27 万軍の主、イスラエルの神であるあなたは、あなたのしもべに『わたしはあなたのために家を建てる』と言って啓示されました。それゆえ、あなたのしもべは心にこの祈りをあなたにささげる思いを抱いたのです。

28 今、主なる神よ、あなたこそ神であり、あなたの言葉は真理です。そして、あなたはこの良いことをしもべに約束してくださいました。

29 ですから今、あなたのしもべの家を祝福し、それがあなたの御前にとこしえに続くようにしてください。主なる神よ、あなたがそう語られたからです。あなたの祝福によって、あなたのしもべの家がとこしえに祝福されますように。」

8

1 この後、ダビデはペリシテ人を打って彼らを従わせた。そしてダビデは、ペリシテ人の手から母なる町の手綱を奪い取った。

2 彼はモアブを打ち破り、彼らを地面に寝かせて縄で測った。すなわち、二本の縄で測った者たちを死に渡し、一本の縄いっぱい測った者たちを生かしておいた。モアブ人はダビデのしもべとなり、貢ぎ物を持って来た。

3 ダビデはまた、レホブの息子であるツォバの王ハダデゼルが、川のほとりで自らの支配を取り戻そうとして行ったとき、彼を打ち破った。

4 ダビデは彼から騎兵千七百人、歩兵二万人を奪い取った。ダビデは戦車用の馬の足の筋をすべて切ったが、百台の戦車に足りる馬は残しておいた。

5 ダマスコのアラム人たちがツォバの王ハダデゼルを助けに来たとき、ダビデはアラム人二万二千人を打った。

6 それからダビデはダマスコのアラムに守備隊を置いた。アラム人はダビデのしもべとなり、貢ぎ物を持って来た。主はダビデが行くところどこでも、彼に勝利をお与えになった。

7 ダビデはハダデゼルのしもべたちが持っていた金の盾を奪い、それらをエルサレムに持って来た。

8 またダビデ王は、ハダデゼルの町々であるベタとベロタイから、非常に多くの青銅を奪い取った。

9 ハマテの王トイは、ダビデがハダデゼルの全軍勢を打ち破ったことを聞いた。

10 そこでトイは、息子ヨラムをダビデ王のもとに遣わし、あいさつさせ、祝福させた。ダビデがハダデゼルと戦い、彼を打ち破ったからである。ハダデゼルはトイと何度も戦っていた。ヨラムは銀の器、金の器、青銅の器を持って来た。

11 ダビデ王はこれらをも、彼が従わせたすべての国々から得てささげた銀や金とともに、主にささげた。

12 すなわちアラム、モアブ、アンモンの子ら、ペリシテ人、アマレク、またレホブの息子であるツォバの王ハダデゼルからの戦利品である。

13 ダビデが塩の谷でアラム人一万八千人を打って帰って来たとき、彼は名を上げた。

14 彼はエドムに守備隊を置き、エドム全土に守備隊を置いた。すべてのエドム人はダビデのしもべとなった。主はダビデが行くところどこでも、彼に勝利をお与えになった。

15 ダビデは全イスラエルを治めた。ダビデは自分のすべての民に対して公正と義を行った。

16 ツェルヤの息子ヨアブが軍の長であり、アヒルデの息子ヨシャファテが記録官であった。

17 アヒトブの息子ツアドクとアビアタルの息子アヒメレクが祭司であり、セラヤが書記官であった。

18 エホヤダの息子ベナヤはケレテ人とペレテ人の長であり、ダビデの息子たちは主要な大臣であった。

9

¹ダビデは言った。「サウルの家には、まだ誰か残っていないか。わたしはヨナタンのために、その人に慈しみを示したい。」

²サウルの家にはツイバという名のしもべがいたので、人々は彼をダビデのところに呼んだ。王が彼に、「あなたがツイバか」と言うと、

彼は言った。「はい、あなたのしもべです。」

³王は言った。「サウルの家には、もう誰もいないのか。わたしはその人に神の慈しみを示したいのだが。」

ツイバは王に言った。「ヨナタンにはまだ一人の息子がいます。彼は両足が不自由です。」

⁴王は彼に言った。「彼はどこにいるのか。」

ツイバは王に言った。「見よ、彼はロ・デバルにある、アミエルの息子マキルの家にいます。」

⁵そこでダビデ王は人を遣わし、ロ・デバルにあるアミエルの息子マキルの家から彼を連れて来させた。

⁶サウルの息子ヨナタンの息子メフィボシエテはダビデのところに来ると、顔を地につけて伏し、敬意を表した。ダビデが「メフィボシエテよ」と言うと、

彼は答えた。「見よ、あなたのしもべです。」

⁷ダビデは彼に言った。「恐れることはない。わたしはあなたの父ヨナタンのために、必ずあなたに慈しみを示し、あなたの父サウルの土地をすべてあなたに返す。あなたは常にわたしの食卓でパンを食べるようになる。」

⁸彼は身をかがめて言った。「あなたのしもべは何者でしょうか。わたしのような死んだ犬に、あなたが目を留めてくださるとは。」

9 それから王はサウルのしもベツィバを呼んで、彼に言った。「サウルとその全家に属していたものをすべて、わたしはあなたの主人の息子に与えた。

10 あなたとあなたの息子たち、それにあなたのしもべたちは、彼のために土地を耕し、収穫物を取り入れなさい。あなたの主人の息子が食べるパンを得るためである。しかし、あなたの主人の息子メフィボシエテは、常にわたしの食卓でパンを食べる。」

さて、ツィバには十五人の息子と二十人のしもべがいた。

11 ツィバは王に言った。「わが君、王がそのしもべに命じられるすべてのことにしたがって、あなたのしもべはそのように行います。」こうしてメフィボシエテは、王の息子たちの一人のように、ダビデの食卓で食事をした。

12 メフィボシエテには一人の幼い息子がおり、その名はミカといった。ツィバの家に住む者は皆、メフィボシエテのしもべとなった。

13 こうしてメフィボシエテはエルサレムに住んだ。彼が常に王の食卓で食事をしたからである。彼は両足が不自由であった。

10

1 この後、アンモンの子らの王が死に、その息子ハヌンが彼に代わって王となった。

2 ダビデは言った。「ナハシュの息子ハヌンに慈しみを示そう。彼の父がわたしに慈しみを示してくれたように。」そこでダビデは、彼の父のことで彼を慰めるために、自分のしもべたちを遣わした。ダビデのしもべたちがアンモンの子らの地に入って来たとき、

3 アンモンの子らの君主たちは、彼らの主君ハヌンに言った。「ダビデがあなたに慰めの使者を遣わしたからといって、彼があなたの父を敬っているとお考えですか。ダビデが自分のしもべたちをあなたのところに遣わしたのは、この町を調べ、探り出し、これを覆すためではありませんか。」

4 そこでハヌンはダビデのしもべたちを捕らえ、彼らのひげの半分を剃り落とし、彼らの服を半分に、すなわち尻のところまで切り取って、彼らを送り帰した。

5 人々がこのことをダビデに告げると、彼は彼らを迎えるために人を遣わした。この男たちがひどく恥をかいていたからである。王は言った。「あなたがたのひげが伸びるまでエリコにとどまり、それから帰りなさい。」

6 アンモンの子らは、自分たちがダビデに忌み嫌われるようになったのを見ると、人を遣わして、ベテ・レホブのアラム人とツォバのアラム人の歩兵二万人、マアカの王と千人の男たち、それにトブの男たち一万二千人を雇った。

7 ダビデはそれを聞くと、ヨアブと勇士たちの全軍勢を遣わした。

8 アンモンの子らは出て来て、門の入り口で戦いの陣を敷いた。ツォバとレホブのアラム人、またトブとマアカの男たちは、別に野にいた。

9 ヨアブは、戦いの陣が自分の前と後ろに敷かれているのを見ると、イスラエルのすべての精鋭から人を選び、アラム人に向かって陣を敷いた。

10 残りの民は自分の兄弟アビシャイの手に委ねた。そして彼はアンモンの子らに対して陣を敷いた。

11 ヨアブは言った。「もしアラム人がわたしにとって強すぎるなら、あなたがわたしを助けなさい」

い。しかし、もしアンモンの子らがあなたにとって強すぎるなら、わたしが行ってあなたを助けよう。

12 勇敢でありなさい。われわれの民のため、またわれわれの神の町々のために、われわれは強くあろう。主がご自身の目に良いとされることを行われるように。」

13 そこでヨアブと、彼とともにいた民がアラム人との戦いに近づくと、彼らはヨアブの前から逃げ去った。

14 アンモンの子らはアラム人が逃げたのを見ると、自分たちもアビシャイの前から逃げ去り、町の中に入った。それからヨアブはアンモンの子らから引き上げて、エルサレムに帰った。

15 アラム人は自分たちがイスラエルに打ち負かされたのを見ると、一堂に集まった。

16 ハダデゼルは人を遣わし、川の向こうにいるアラム人を呼び出した。彼らはヘラムに來た。ハダデゼルの軍の長であるショバクが彼らの先頭に立っていた。

17 これがダビデに告げられると、彼は全イスラエルを集め、ヨルダン川を渡って、ヘラムに來た。アラム人はダビデに対して陣を敷き、彼と戦った。

18 アラム人はイスラエルの前から逃げ去った。ダビデはアラム人の戦車隊七百人と騎兵四万人を殺し、彼らの軍の長であるショバクを打ったので、彼はそこで死んだ。

19 ハダデゼルのしもべであったすべての王たちは、自分たちがイスラエルに打ち負かされたのを見ると、イスラエルと和睦し、彼らに仕えた。こうしてアラム人はもはやアンモンの子らを助けることを恐れた。

11

¹ 年が巡り、王たちが出陣する時期になると、ダビデはヨアブとその部下たち、および全イスラエルを遣わした。彼らはアンモンの子らを滅ぼし、ラバを包囲した。しかしダビデはエルサレムにとどまっていた。

² 夕暮れ時、ダビデは寝台から起き上がり、王の家の屋上を歩いていた。屋上から一人の女が水浴びをしているのが見えた。その女は非常に美しかった。

³ ダビデは人を遣わして、その女について尋ねさせた。ある者が、「あれはエリアムの娘で、ヘテ人ウリヤの妻バテ・シェバではありませんか」と言った。

⁴ ダビデは使者たちを遣わして彼女を連れて来させた。彼女が彼のもとに来ると、彼は彼女と寝た（彼女は汚れから身をきよめていたからである）。その後、彼女は自分の家に帰った。

⁵ 女は身ごもったので、人を遣わしてダビデに告げて、「わたしは身ごもりました」と言った。

⁶ ダビデはヨアブに、「ヘテ人ウリヤをわたしのものと遣わしなさい」と言って人を遣わした。そこでヨアブはウリヤをダビデのもとに遣わした。

⁷ ウリヤが彼のもとに来たとき、ダビデはヨアブの様子や民の様子、そして戦いの状況がどうかを尋ねた。

⁸ ダビデはウリヤに言った。「自分の家に下って行き、足を洗いなさい。」ウリヤが王の家から出て行くと、王からの贈り物が彼の後から届けられた。

⁹ しかしウリヤは、自分の家に下って行かず、主君のすべてのしもべたちとともに王の家の入り口で寝た。

10 人々がダビデに、「ウリヤは自分の家に下って行きませんでした」と告げたとき、ダビデはウリヤに言った。「あなたは旅から帰って来たのではないか。なぜ自分の家に下って行かなかったのか。」

11 ウリヤはダビデに言った。「箱も、イスラエルも、ユダも天幕にとどまり、わたしの主君ヨアブも、わたしの主君のしもべたちも野に宿営しています。それなのに、わたしだけが自分の家に行って食べたり飲んだりし、妻と寝ることができるでしょうか。あなたが生き、あなたの魂が生きているにかけて誓います。わたしはそのようなことはいたしません。」

12 ダビデはウリヤに言った。「今日もここにとどまりなさい。明日、あなたを送り出そう。」こうしてウリヤは、その日と次の日、エルサレムにとどまった。

13 ダビデが彼を招いたので、彼はダビデの前で飲み食いし、ダビデは彼を酔わせた。しかし夕暮れになると、彼は出て行って主君のしもべたちとともに寝台で寝て、自分の家には下って行かなかった。

14 朝になると、ダビデはヨアブに手紙を書き、ウリヤの手に託して送った。

15 彼は手紙にこう書いた。「ウリヤを最も激しい戦いの最前線に出し、彼が打たれて死ぬように、彼から退け。」

16 ヨアブは町を包囲して見張っていたとき、勇敢な者たちがいると知っていた場所にウリヤを配置した。

17 町の者たちが出て来てヨアブと戦った。ダビデのしもべである民のうちの数人が倒れ、ヘテ人ウリヤもまた死んだ。

18 そこでヨアブは人を遣わし、戦いに関するすべての事をダビデに告げさせた。

19 彼は使者に命じて言った。「戦いに関するすべての事を王に話し終えたとき、

20 もし王の怒りが燃え上がり、あなたにこう言ったなら。『なぜ戦うために、それほど町に近づいたのか。彼らが城壁の上から射かけてくることを知らなかったのか。』

21 エルベシエテの息子アビメレクを打ったのは誰か。一人の女が城壁の上から彼の上にひき臼の上石を投げ落とし、彼がテベツで死んだのではなかったか。なぜそれほど城壁に近づいたのか。』そのとき、あなたは、『あなたのしもべであるヘテ人ウリヤも死にました』と言いなさい。」

22 そこで使者は行き、ダビデのもとに来て、ヨアブが彼を遣わして伝えさせたすべてのことを報告した。

23 使者はダビデに言った。「あの者たちはわれわれに対して優勢になり、野にいるわれわれのところへ出て来ました。そこでわれわれは門の入り口まで彼らを追い詰めました。

24 射手たちが城壁の上からあなたのしもべたちに向かって射かけ、王のしもべたちのうち数人が死にました。あなたのしもべであるヘテ人ウリヤもまた死にました。」

25 するとダビデは使者に言った。「あなたはヨアブにこう言いなさい。『この事を悪く思ってはならない。剣はこの者もあの者も同じように食い尽くすからだ。町に対する戦いをさらに強め、それを打ち倒せ。』彼を励ましなさい。」

26 ウリヤの妻は、夫ウリヤが死んだことを聞くと、夫のために泣き悲しんだ。

27 喪の期間が過ぎると、ダビデは人を遣わして彼女を自分の家に引き取った。彼女は彼の妻となり、彼に男の子を産んだ。しかし、ダビデが行ったこの事は、主の御目には悪であった。

12

1 主はナタンをダビデのもとに遣わされた。彼はダビデのところに来て、彼に言った。「ある町に二人の男がいました。一人は富んでおり、もう一人は貧しい者でした。

2 富んでいる男には、非常に多くの羊や牛の群れがいましたが、

3 貧しい男には、自分で買って育てていた一匹の小さな雌の小羊のほかには、何もありませんでした。その小羊は彼と彼の子らと一緒に育ち、彼の食べ物を食べ、彼の杯から飲み、彼の胸で眠り、彼にとっては娘のようでした。

4 一人の旅人が富んでいる男のところに来て来ました。彼は自分のもともと来た旅人のために食事を用意するのに、自分の羊や牛の群れから取ることを惜しみ、その貧しい男の小羊を取って、自分のところに来て男のために調理しました。」

5 ダビデの怒りはその男に対して激しく燃え上がり、ナタンに言った。「主は生きておられる。このようなことをした男は死に値する。

6 彼はこのようなことを行い、あわれみを持たなかったのです、その小羊を四倍にして償わなければならない。」

7 ナタンはダビデに言った。「あなたがその男です。イスラエルの神、主はこう言われます。『わたしはあなたに油を注いでイスラエルの王とし、サウルの手からあなたを救い出した。』

8 わたしはあなたの主君の家をあなたに与え、あなたの主君の妻たちをあなたの胸に与え、イスラエルとユダの家をあなたに与えた。もしそれが少なすぎたのなら、わたしはあなたにさらに多くのものを加えたであろう。

9 なぜ、あなたは主の言葉を軽んじ、その御目に悪であることを行つたのか。あなたはヘテ人ウリヤを剣で打ち、彼の妻を奪って自分の妻とし、アンモンの子らの剣で彼を殺した。

10 あなたがわたしを軽んじ、ヘテ人ウリヤの妻を奪って自分の妻としたので、今や剣はとこしえにあなたの家から離れない。』

11 主はこう言われます。『見よ、わたしはあなた自身の家から、あなたに対して悪を起こす。わたしはあなたの目の前であなたの妻たちを取り、あなたの隣人に与える。彼はこの太陽の光の中で、あなたの妻たちと寝るであろう。』

12 あなたはそれを密かに行つたが、わたしはこの事を全イスラエルの前で、そして太陽の前で行う。』

13 ダビデはナタンに言った。「わたしは主に対して罪を犯しました。」

ナタンはダビデに言った。「主もまた、あなたの罪を取り除かれました。あなたは死ぬことはありません。」

14 しかし、あなたはこの事によって主の敵に大いに冒瀆する機会を与えたので、あなたに生まれるその子は必ず死ぬことになります。」

15 ナタンは自分の家に帰って行つた。

主は、ウリヤの妻がダビデに産んだ子を打たれたので、その子は重い病気になった。

16 それゆえ、ダビデはその子のために神に懇願した。ダビデは断食し、中に入つて、夜通し地

面に横たわっていた。

17 彼の家の長老たちは、彼を地面から起き上がらせようとして彼のそばに立ったが、彼はそうしようとはせず、彼らと一緒にパンを食べることもしなかった。

18 七日目に、その子は死んだ。ダビデのしもべたちは、子が死んだことを彼に告げるのを恐れた。彼らはこう言ったからである。「見よ、子がまだ生きていたとき、われわれが彼に話しかけても、彼はわれわれの声に耳を傾けなかった。子が死んだと告げたら、彼はどれほど自分を傷つけることだろう。」

19 しかしダビデは、しもべたちがささやき合っているのを見て、子が死んだことを悟った。ダビデはしもべたちに言った。「子は死んだのか。」

彼らは言った。「死にました。」

20 そこでダビデは地面から起き上がり、体を洗い、油を塗り、衣服を着替えた。そして主の家に入って礼拝した。それから自分の家に帰り、彼が求めると、彼らは彼の前にパンを出し、彼は食べた。

21 すると、しもべたちは彼に言った。「あなたがされたこの事は何ですか。子が生きている間は、あなたはその子のために断食して泣かれましたが、子が死ぬと、あなたは起き上がってパンを食べられました。」

22 彼は言った。「子がまだ生きていた間、わたしが断食して泣いたのは、『もしかすると主がわたしをあわれみ、子を生かしてくださるかもしれない』と思ったからだ。」

23 しかし今、子は死んでしまった。なぜわたしは断食しなければならないのか。わたしはあの子を再び連れ戻すことができるだろうか。わたし

はあの子のところへ行くが、あの子がわたしのところに戻って来ることはない。」

24 ダビデは妻バテ・シェバを慰め、彼女のところに入って、彼女と寝た。彼女は男の子を産み、彼はその名をソロモンと呼んだ。主は彼を愛され、

25 主は預言者ナタンを遣わし、主のゆえにその子をエディデヤ*と名付けられた。

26 さて、ヨアブはアンモンの子らのラバと戦い、王の町を攻め取った。

27 ヨアブはダビデに使者たちを遣わして言った。「わたしはラバと戦いました。はい、わたしは水の町を攻め取りました。」

28 ですから今、残りの民を集めて町の向かいに陣を敷き、そこを攻め取ってください。そうしなければ、わたしが町を攻め取り、わたしの名で呼ばれることになってしまいます。」

29 ダビデはすべての民を集め、ラバへ行ってそれと戦い、そこを攻め取った。

30 彼は彼らの王の頭から王冠を奪い取った。その重さは一タラント†の金であり、そこには宝石がはめ込まれていた。それはダビデの頭に置かれた。彼は町から非常に多くの戦利品を持ち出した。

31 彼はその中にいた民を引き出し、彼らをのこぎり、鉄の鶴嘴、鉄の斧を用いる労働に就かせ、れんが窯で働かせた。彼はアンモンの子らのすべての町々にこのようにした。それからダビデとすべての民はエルサレムに帰った。

13

1 この後、ダビデの息子アブサロムにはタマルという名の美しい妹がいた。ダビデの息子アムノン

* 12:25 12:25 「エディデヤ」は「主に愛された者」を意味する。

† 12:30 12:30 一タラントは約30キログラム、または約66ポンドである。

は彼女を愛するようになった。

² アムノンは妹タマルのゆえに思い悩み、病気になるほどであった。彼女は処女であり、アムノンには彼女に手を出すことが難しく思えたからである。

³ しかしアムノンには一人の友人がおり、その名はヨナダブといった。彼はダビデの兄弟シメアの息子であった。ヨナダブは非常に悪賢い男であった。

⁴ 彼はアムノンに言った。「王の息子よ、なぜあなたは日ごとにそのように沈んでいるのか。わたしに話してくれないか。」

アムノンは彼に言った。「わたしは兄弟アブサロムの妹タマルを愛している。」

⁵ ヨナダブは彼に言った。「寝台に横になり、病気のふりをしなさい。あなたの父があなたを見舞いに来たなら、彼に言いなさい。『どうか、妹のタマルを来させて、わたしに食べ物を与え、わたしの目の前で料理をさせてください。わたしがそれを見て、彼女の手から食べられるように。』」

⁶ そこでアムノンは横になり、病気のふりをした。王が彼を見舞いに来たとき、アムノンは王に言った。「どうか、妹のタマルを来させて、わたしの目の前で二つの菓子を作らせてください。わたしが彼女の手から食べられるように。」

⁷ そこでダビデはタマルの家に人を遣わして言った。「今すぐあなたの兄弟アムノンの家に行き、彼のために食べ物を用意しなさい。」

⁸ そこでタマルは兄弟アムノンの家に行った。彼は横になっていた。彼女はパン生地を取り、それをこねて、彼の目の前で菓子を作り、その菓子を焼いた。

⁹ 彼女は鍋を取り、彼の前にそれを取り出したが、彼は食べることを拒んだ。アムノンは言った。

「すべての者をわたしのところから退出させよ。」すると、すべての者が彼から退出した。

10 アムノンはタマルに言った。「その食べ物を寝室に持ってきなさい。わたしがあなたの手から食べるように。」タマルは自分が作った菓子を取り、兄弟アムノンのいる寝室に持って行った。

11 彼女が彼に食べさせようとそれを近づけたとき、彼は彼女を捕らえて言った。「妹よ、来てわたしと寝なさい。」

12 彼女は彼に答えた。「いいえ、兄弟よ、わたしに無理強いしないでください。イスラエルにおいてそのようなことは行われるべきではありません。この愚行をしてはなりません。」

13 わたしは、自分の恥をどこへ持って行けばよいのでしょうか。それにあなたも、イスラエルにおける愚か者の一人のようになってしまいます。ですから今、どうか王に話してください。王はわたしをあなたに与えることを惜しまれないでしょう。」

14 しかし、彼は彼女の声に耳を傾けようとはしなかった。彼は彼女よりも力が強かったので、彼女に無理強いし、彼女と寝た。

15 その後、アムノンは彼女を極めて激しい憎しみをもって憎んだ。彼が彼女を憎むその憎しみは、彼が彼女を愛していた愛よりも大きかった。アムノンは彼女に言った。「起きて、出て行け。」

16 彼女は彼に言った。「いけません。わたしを追い出すというこの大きな悪は、あなたがわたしにした先のことよりもさらに悪いことです。」

しかし、彼は彼女に耳を傾けようとはしなかった。

17 それから彼は自分に仕えている若者と呼んで言った。「今すぐこの女をわたしのところか

ら外に出し、彼女のうしろで戸のかんぬきをかけよ。」

18 彼女はいろいろな色の長衣を着ていた。王の処女である娘たちは、そのような上着を着ていたからである。そこで彼のしもべは彼女を外に出し、彼女のうしろで戸のかんぬきをかけた。

19 タマルは頭に灰をかぶり、着ていたいろいろな色の長衣を引き裂き、頭に手を当てて、大声で泣きながら歩いて行った。

20 彼女の兄弟アブサロムは彼女に言った。「あなたの兄弟アムノンがあなたと一緒にいたのか。しかし妹よ、今は黙っていなさい。彼はあなたの兄弟だ。この事を思い詰めてはならない。」こうしてタマルは、兄弟アブサロムの家で荒れ果てたように過ごした。

21 ダビデ王はこれらすべての事を聞くと、非常に怒った。

22 アブサロムはアムノンに、良いことも悪いことも何も言わなかった。アブサロムは、アムノンが自分の妹タマルに無理強いしたため、彼を憎んでいたからである。

23 丸二年が経った後、アブサロムはエフライムのそばにあるバアル・ハツオルで羊の毛刈りを行い、王の息子たちをすべて招いた。

24 アブサロムは王のところに来て言った。「今ご覧のように、あなたのしもべは羊の毛刈りを行っております。どうか、王とそのしもべたちも、あなたのしもべと一緒に行ってください。」

25 王はアブサロムに言った。「いや、わが息子よ、われわれ全員が行くのはやめておこう。あなたに負担をかけてはならないから。」アブサロムは王に強く勧めたが、王は行こうとはせず、彼を祝福した。

26 そこでアブサロムは言った。「それなら、どうか兄弟のアムノンをわれわれと一緒に行かせてください。」

王は彼に言った。「なぜ彼があなたと一緒に行く必要があるのか。」

27 しかしアブサロムが強く勧めたので、王はアムノンとすべての王の息子たちを彼とともに行かせた。

28 アブサロムは自分のしもべたちに命じて言った。「よく見ておけ。アムノンの心がぶどう酒で陽気になったとき、わたしが『アムノンを打て』とあなたがたに言ったら、彼を殺せ。恐れてはならない。わたしがあなたがたに命じたのではないか。勇気を出し、勇敢であれ。」

29 アブサロムのしもべたちは、アブサロムが命じたとおりにアムノンに対して行った。すると王の息子たちは皆起き上がり、それぞれ自分の騾馬に乗って逃げた。

30 彼らが道中にいたとき、ダビデに知らせが届き、「アブサロムが王の息子たちをすべて殺し、一人も残っていません」と告げられた。

31 すると王は立ち上がり、自分の服を引き裂いて、地面に横たわった。彼のしもべたちも皆、服を引き裂いてそばに立っていた。

32 ダビデの兄弟シメアの息子ヨナダブは答えた。「わが主君が、王の息子である若者たちが皆殺されたと考えてはなりません。死んだのはアムノンだけです。彼が妹のタマルに無理強いした日から、アブサロムの決定により、このことが定められていたからです。」

33 ですから今、わが主君、王は、王の息子たちが皆死んだと考えて、この事を心に留められないようにしてください。死んだのはアムノンだけなのですから。」

³⁴ しかしアブサロムは逃げた。見張りをしていた若者が目を上げて見ると、見よ、多くの人々が、彼の背後の丘の中腹の道からやって来るのが見えた。

³⁵ ヨナダブは王に言った。「見よ、王の息子たちが来ます。あなたのしもべが言ったとおりです。」

³⁶ 彼が話し終えるやいなや、見よ、王の息子たちがやって来て、声を上げて泣いた。王もそのしもべたちも皆、激しく泣いた。

³⁷ しかしアブサロムは逃げて、ゲシュルの王、アミフドの息子タルマイのところへ行った。ダビデは毎日、自分の息子のために悲しんだ。

³⁸ アブサロムはゲシュルに逃げて行き、そこで三年間を過ごした。

³⁹ ダビデ王はアブサロムのところに出て行きたいと切に願うようになった。アムノンについては、彼が死んだことで慰めを得ていたからである。

14

¹ さて、ツェルヤの息子ヨアブは、王の心がアブサロムに向いていることに気づいた。

² ヨアブはテコアに人を遣わし、そこから一人の知恵のある女を連れて来て、彼女に言った。「どうか、喪に服しているふりをして、喪服を着てください。油を塗らず、死者のために長く喪に服している女のようになってください。」

³ そして王のところに行き、このように話しなさい。」こうしてヨアブは彼女の口に言葉を入れた。

⁴ テコアの女が王に話しかけたとき、彼女は地にひれ伏して敬意を表し、「王よ、お助けください」と言った。

⁵ 王は彼女に言った。「どうしたのか。」

彼女は答えた。「本当にわたしはやもめで、
夫は死にました。

⁶ あなたのはしためには二人の息子がいましたが、彼らは野で争いました。彼らを引き離す者は誰もいなかったので、一人がもう一人を打って殺してしまいました。

⁷ 見よ、一族全体があなたのはしために立ち向かって、こう言っています。『兄弟を打った者を引き渡せ。彼が殺した兄弟の命の代わりに、われわれが彼を殺し、跡継ぎをも滅ぼすためだ。』こうして彼らは、残されているわたしの炭火を消し、わたしの夫の名も跡継ぎも、この地上に残さないようにしようとしているのです。」

⁸ 王は女に言った。「あなたの家に帰りなさい。わたしがあなたについて命令を出そう。」

⁹ テコアの女は王に言った。「わが君、王よ。その咎はわたしと、わたしの父の家にありますように。王とその王座は無罪です。」

¹⁰ 王は言った。「だれでもあなたに何かを言う者がいれば、その者をわたしのところに連れて来なさい。彼が二度とあなたを煩わせることはない。」

¹¹ すると彼女は言った。「どうか王が、あなたの神、主を覚えていただきますように。血の復讐をする者がこれ以上滅びをもたらし、彼らがわたしの息子を滅ぼすことのないようにしてください。」

彼は言った。「主は生きておられる。あなたの息子の髪の毛一本も地に落ちることはない。」

¹² それから女は言った。「どうか、あなたのはしのために、わが君、王へひと言話させてください。」

彼は言った。「話しなさい。」

13 女は言った。「ではなぜ、あなたは神の民に対してこのようなことを企てられたのですか。王はこの言葉を語ること、ご自分が追放した者を再び連れ戻そうとしない点において、有罪の者のようです。」

14 われわれは必ず死ぬ者であり、地にこぼれて再び集めることのできない水のようにです。神は命を取り去られるのではなく、追放された者をご自身から見捨てられた者とならないように、手段を備えられます。

15 ですから今、わたしがわが君、王にこの言葉を話すために来たのは、民がわたしを恐れさせたからです。あなたのはしためは言いました。『わたしは今、王に話そう。もしかすると、王はしもべの願いをかなえてくださるかもしれない。』

16 王は聞いてくださり、神の相続地から、わたしと息子をと共に滅ぼそうとする男の手から、しもべを救い出してくさるだらう。』

17 それであなたのはしためは言いました。『どうか、わが君、王の言葉が安らぎをもたらしますように。わが君、王は神の使いのように、善と悪を見分けることができるからです。あなたの神、主があなたとともにおられますように。』

18 そこで王は女に答えて言った。「わたしが尋ねることを、どうか隠さないでくれ。」

女は言った。「わが君、王よ、今お話しくさいます。」

19 王は言った。「このすべてのことにおいて、ヨアブの手があなたとともにあったのか。」

女は答えた。「わが君、王よ、あなたの魂が生きているにかけて誓います。わが君、王が語られたことから、だれも右にも左にも逸れることはできません。あなたのしもべヨアブがわたしに求め、彼がこ

のすべての言葉をあなたのはしための口に入れたからです。

20 事の様相を変えるために、あなたのしもべヨアブはこの事を行いました。わが君は、地にあるすべてのことを知る神の使いの知恵のように賢くあられます。」

21 王はヨアブに言った。「見よ、今わたしはこの事を行おう。だから行って、若者アブサロムを連れ戻しなさい。」

22 ヨアブは地にひれ伏して敬意を表し、王を祝福した。ヨアブは言った。「今日、あなたのしもべは、わたしがわが君、王の御目に恵みを得たことを知りました。王がしもべの願いをかなえてくださったからです。」

23 そこでヨアブは立ち上がってゲシュルへ行き、アブサロムをエルサレムに連れて来た。

24 王は言った。「彼を自分の家へ帰らせよ。だが、わたしの顔を見てはならない。」こうしてアブサロムは自分の家へ帰り、王の顔を見ることはなかった。

25 さて、全イスラエルの中で、アブサロムほどその美しさを大いにほめたたえられた者はいなかった。足の裏から頭の頂まで、彼には欠点がなかった。

26 彼が頭の毛を刈る時（それが重くなったので、彼は毎年、年末にそれを刈っていた）、王の重り石にしたがって、その頭の毛を量ると二百シェケル* あった。

27 アブサロムには三人の息子と一人の娘が生まれた。娘の名はタマルといい、美しい顔立ちの女であった。

* 14:26 14:26 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。二百シェケルは

28 アブサロムはエルサレムに丸二年間住んだが、王の顔を見ることはなかった。

29 それでアブサロムは王のもとに遣わそうとして、ヨアブを呼んだが、彼は来ようとはしなかった。彼が再び二度目に人を遣わしたが、それでも彼は来ようとはしなかった。

30 そこで彼は自分のしもべたちに言った。「見よ、ヨアブの畑がわたしの畑の近くにあり、そこに大麦がある。行ってそれに火を放て。」アブサロムのしもべたちはその畑に火を放った。

31 そこでヨアブは立ち上がって、アブサロムの家に来て、彼に言った。「なぜあなたのしもべたちは、わたしの畑に火を放ったのか。」

32 アブサロムはヨアブに答えた。「見よ、わたしはあなたのところに人を遣わして言った。『ここに来てくれ。あなたを王のもとに遣わし、』「なぜわたしはゲシュルから帰って来たのですか。まだあそこにいた方が、わたしにとっては良かったのです。ですから今、わたしに王の顔を見せてください。もしわたしに咎があるなら、わたしを殺させてください」と言わせるためだ。』」

33 そこでヨアブは王のところに来て、彼に告げた。王がアブサロムを呼ぶと、彼は王のところに来て、王の御前で地にひれ伏した。そして王はアブサロムに口づけした。

15

1 この後、アブサロムは自分のために戦車と馬、そして自分の前を走る五十人の男たちを用意した。

2 アブサロムは朝早く起き、門の道のそばに立った。さばきのために王のところを持っていく訴えのある者がいると、アブサロムはその者を呼んで、「あなたはどの町の者か」と言った。彼が、「あな

たのしもべはイスラエルの部族の一つの者です」と答えると、

³ アブサロムは彼に言った。「見よ、あなたの言い分は良くて正しい。しかし、王から任命されてあなたの話を聞く者はだれもない。」

⁴ アブサロムはさらに言った。「ああ、わたしがこの地で裁く者に任命されたなら。そうすれば、訴えや事件を持つ者はだれでもわたしのところに来て、わたしが彼に正義を行ってやるのに。」

⁵ また、だれかが彼に身をかかめようと近づくと、彼は手を伸ばしてその者をつかみ、口づけした。

⁶ アブサロムは、さばきを求めて王のところに来るすべてのイスラエルに対して、このようなことをした。こうしてアブサロムはイスラエルの人々の心を盗んだ。

⁷ 四十年の終わりに、アブサロムは王に言った。「どうか、わたしが主にお誓いした誓願を果たすために、ヘブロンへ行かせてください。」

⁸ あなたのしもべはアラムのゲシュルに住んでいた間、誓願を立てて、『もし主が本当にわたしをエルサレムに連れ戻してくださるなら、わたしは主に仕えます』と言ったからです。」

⁹ 王は彼に言った。「安心して行きなさい。」そこで彼は立ち上がり、ヘブロンへ行った。

¹⁰ しかしアブサロムは、イスラエルのすべての部族の至る所に密偵を送って言った。「角笛の音を聞いたなら、そのときあなたがたは『アブサロムがヘブロンで王となった』と言え。」

¹¹ 招かれた二百人の男たちがエルサレムからアブサロムとともに行った。彼らは無邪気に行き、何も知らなかった。

12 アブサロムがいけにえをささげていたとき、彼はダビデの助言者であるギロ人アヒトフェルを、その町ギロから呼び寄せた。陰謀は強固なものとなった。民が絶えずアブサロムのもとに増え続けたからである。

13 使者がダビデのところに来て、「イスラエルの人々の心はアブサロムに従っています」と告げた。

14 ダビデはエルサレムで自分とともにいたすべてのしもべたちに言った。「立ち上がって逃げよう。そうしなければ、われわれのだれもアブサロムから逃れることはできない。急いで出発せよ。彼がすぐにわれわれに追いつき、われわれに悪をもたらし、剣の刃で町を打つことのないように。」

15 王のしもべたちは王に言った。「見よ、あなたのしもべたちは、わが君、王が選ばれることから何でも行う用意ができています。」

16 王は出て行き、その家族も皆、彼のあとに続いた。王は家を守るために、そばめである十人の女を残した。

17 王は出て行き、すべての民も彼のあとに続いた。彼らはベテ・メルハクにとどまった。

18 彼のしもべたちは皆、彼のそばを通り過ぎた。すべてのケレテ人と、すべてのペレテ人と、すべてのガテ人、すなわちガテから彼に従って来た六百人の男たちは、王の前を通り過ぎた。

19 そのとき王はガテ人イタイに言った。「なぜあなたもわれわれと一緒に行くのか。帰って、王とともにとどまりなさい。あなたは外国人であり、また追放された者なのだから。自分の場所に帰りなさい。」

20 あなたは昨日来たばかりなのに、わたしは今日、あなたをわれわれとともにさまよわせるべきだろうか。わたしはどこへ行くかも分からないのに。

帰って、あなたの兄弟たちを連れて帰りなさい。
慈しみと真実があなたとともにありますように。」

21 イタイは王に答えて言った。「主は生きておられ、わが君、王も生きておられます。わが君、王がおられる場所には、死ぬためであれ生きるためであれ、必ずあなたのしもべもそこにおります。」

22 ダビデはイタイに言った。「行って、通り過ぎなさい。」ガテ人イタイは、彼のすべての部下と、彼とともにいたすべての幼い子どもたちとともに通り過ぎた。

23 全地方の者が大声を上げて泣き、すべての民は通り過ぎた。王自身もキデロンの川を渡り、すべての民は荒野への道に向かって通り過ぎた。

24 見よ、ツアドクもまた、彼とともにいるすべてのレビ人を連れて、神の契約の箱を担いで来た。彼らが神の箱を下に置くと、アビアタルはすべての民が町から通り過ぎるまで上って行った。

25 王はツアドクに言った。
「神の箱を町へ運び戻しなさい。もしわたしが主の御目に恵みを得るなら、主はわたしを再び連れ戻し、それとその住まいとをわたしに見せてくださるだろう。」

26 しかし、もし主が『わたしはあなたを喜ばない』と言われるなら、見よ、わたしはここにいる。主が良いと思われることを、わたしになさるように。」

27 王はまた祭司ツアドクに言った。「あなたは先見者ではないか。安心して町へ帰りなさい。あなたの二人の息子、あなたの息子アヒマアツと、アビアタルの息子ヨナタンも一緒に。」

28 見よ、わたしはあなたがたから知らせの言葉が来るまで、荒野の浅瀬にとどまる。」

29 そこでツアドクとアビアタルは、神の箱を再びエルサレムに運び戻し、そこにとどまった。

30 ダビデはオリーブ山の坂を上って行き、上りながら泣いた。彼は頭を覆い、裸足で歩いた。彼とともにいたすべての民もそれぞれ自分の頭を覆い、泣きながら上って行った。

31 ある者がダビデに、「アヒトフェルはアブサロムと結託して陰謀を企てている者たちの中にいます」と告げた。ダビデは言った。「主よ、どうかアヒトフェルの助言を愚かなものにしてください。」

32 ダビデが神が礼拝される坂の頂に来たとき、見よ、アルキ人フシャイが上着を引き裂き、頭に土をかぶって彼を迎えに来た。

33 ダビデは彼に言った。「もしあなたがわたしと一緒に進んで行くなら、あなたはわたしの重荷になる。」

34 しかし、もしあなたが町へ帰り、アブサロムに『王よ、わたしはあなたのしもべになります。昔、わたしはあなたの父のしもべであつたように、今はあなたのしもべになります』と言うなら、あなたはわたしのためにアヒトフェルの助言を打ち破ることになる。

35 そこには祭司ツアドクとアビアタルが、あなたとともにいるではないか。だから、王の家から聞くことは何でも、祭司ツアドクとアビアタルに告げなさい。

36 見よ、彼らにはそこに、彼らの二人の息子、ツアドクの息子アヒマアツとアビアタルの息子ヨナタンが一緒にいる。あなたがたは聞いたことすべてを、彼らを通してわたしに知らせなさい。」

37 こうしてダビデの友人フシャイは町に入り、アブサロムはエルサレムに入った。

16

¹ ダビデが坂の頂を少し過ぎたとき、見よ、メフィボシエテのしもベツィバが、鞍を置いた一對のろばと、その上に二百個のパン、干しぶどうの房百個、夏の果物百個、そして皮袋一つのぶどう酒を載せて、彼を出迎えた。

² 王はツィバに言った。「これらは何のためか。」ツィバは言った。「ろばは王の家族が乗るため、パンと夏の果物は若者たちが食べるため、ぶどう酒は荒野で気を失いそうな者が飲むためです。」

³ 王は言った。「そして、あなたの主人の息子はどこにいるのか。」ツィバは王に言った。「見よ、彼はエルサレムにとどまっています。彼は『今日、イスラエルの家はわたしの父の王国をわたしに回復してくれるだろう』と言ったからです。」

⁴ そこで王はツィバに言った。「見よ、メフィボシエテに属するものはすべてあなたのものだ。」ツィバは言った。「わたしはひれ伏します。わが君、王よ、あなたの目に恵みを得られますように。」

⁵ ダビデ王がバフリムに来たとき、見よ、サウルの家氏族の男が出て来た。その名はゲラの息子シメイといった。彼は出て来て、ずっと呪いの言葉を吐きながらやって来た。

⁶ 彼はダビデと、ダビデ王のすべてのしもべたちに石を投げつけた。すべての民とすべての勇士たちは、王の右と左にいた。

⁷ シメイは呪いながら言った。「出て行け、出て行け。血を流す男、ならず者よ。」

⁸ 主はサウルの家のすべての血をあなたに報いられた。あなたはその代わりとして王となったのだ。主は王国をあなたの息子アブサロムの手に渡され

た。見よ、あなたは自分の悪事によって捕らえられた。あなたが血を流す男だからだ。」

⁹するとツエルヤの息子アビシャイは王に言った。「なぜこの死んだ犬が、わが君、王を呪うのでしょうか。どうか、わたしを向こうへ行かせて、彼の首をはねさせてください。」

¹⁰王は言った。「ツエルヤの息子たちよ、わたしがあなたがたと何のかかわりがあるだろうか。彼が呪っているのは、主が彼に『ダビデを呪え』と言われたからだ。それならだれが『なぜあなたはそうにしたのか』と言えるだろうか。」

¹¹ダビデはアビシャイとすべてのしもべたちに言った。「見よ、わたしの体から出たわたしの息子でさえ、わたしの命を狙っている。まして、このベニヤミン人はなおさらだ。彼をそのままにしておき、彼に呪わせよ。主が彼にお命じになったのだから。」

¹²もしかすると、主がわたしの受ける不当な扱いをご覧になり、今日のわたしの呪いの代わりに、主がわたしに良いことを報いてくださるかもしれない。」

¹³こうしてダビデとその部下たちは道を進んだ。シメイは彼の向かいの山腹を歩きながら呪い続け、彼に向かって石を投げ、ちりを投げつけた。

¹⁴王と彼とともにいたすべての民は疲れ果てて着き、そこで息を休めた。

¹⁵アブサロムとすべての民、イスラエルの男たちはエルサレムに到着し、アヒトフェルも彼とともにいた。

¹⁶ダビデの友人であるアルキ人フシャイがアブサロムのところに来たとき、フシャイはアブサロム

に言った。「王よ、長く生きられますように。
王よ、長く生きられますように。」

17 アブサロムはフシャイに言った。「これがあなたの友人への慈しみなのか。なぜあなたは友人とともにいかなかったのか。」

18 フシャイはアブサロムに言った。「いいえ、主と、この民と、すべてのイスラエルの男たちが選んだ方、わたしはその方のものとなり、その方とともにとどまります。」

19 さらに、わたしはだれに仕えるべきでしょうか。その息子さんの御前で仕えるべきではないでしょうか。わたしがあなたのお父上の御前で仕えたように、あなたの御前でもそのようにいたします。」

20 それからアブサロムはアヒトフェルに言った。「われわれは何をすべきか、あなたの助言を与えよ。」

21 アヒトフェルはアブサロムに言った。「あなたの父が家を守るために残した、彼のそばめたちのところに入りなさい。そうすれば、全イスラエルはあなたが父に忌み嫌われていることを聞くでしょう。そして、あなたとともにいるすべての者の手は強くなるでしょう。」

22 そこで人々は、家の屋上にアブサロムのために天幕を張り、アブサロムは全イスラエルの目の前で父のそばめたちのところに入った。

23 その当時にアヒトフェルが与えた助言は、人が神の言葉を伺うかのようであった。アヒトフェルのすべての助言は、ダビデにとってもアブサロムにとってもそのようであった。

17

1 さらに、アヒトフェルはアブサロムに言った。「どうか、わたしに一万二千人の男たちを選ばせて

ください。わたしは立ち上がり、今夜ダビデを追跡します。

²彼が疲れて弱っているときに、わたしは彼を襲い、彼を恐れさせます。彼とともにいるすべての民は逃げ去るでしょう。わたしは王だけを打ちます。

³そして、すべての民をあなたのもとに連れ戻します。あなたが求めている一人の男に、すべての者が戻るかどうかはかかっています。そうして、すべての民は平和になるでしょう。」

⁴この言葉はアブサロムと、イスラエルのすべての長老たちに良いとされた。

⁵そこでアブサロムは言った。「今、アルキ人フシャイも呼びなさい。彼も何と言うか聞いてみよう。」

⁶フシャイがアブサロムのもとに来ると、アブサロムは彼に語って言った。「アヒトフェルはこのように語った。われわれは彼の言うとおりにすべきか。そうでないなら、話しなさい。」

⁷フシャイはアブサロムに言った。「アヒトフェルが今回与えた助言は良くありません。」

⁸フシャイはさらに言った。「あなたは自分の父とその部下たちをご存じです。彼らは勇士であり、野で子を奪われた熊のように激しく怒っています。あなたの父は戦いの熟練者であり、民と一緒に夜を過ごすことはありません。」

⁹見よ、彼は今、どこかの穴か、あるいはどこか別の場所に隠れています。初めに彼らのうちの何人かが倒れたとき、それを聞く者はだれでも、『アブサロムに従う民の間に殺戮があった』と言うでしょう。

¹⁰たとえ獅子の心のような心を持つ勇敢な者であっても、完全に溶け去ってしまいます。全イスラエ

ルは、あなたの父が勇士であり、彼とともにいる者たちが勇敢な男たちであることを知っているからです。

11 ですから、わたしはこう助言します。ダンからベエルシェバに至るまで、海辺の砂のように数多い全イスラエルをあなたのもとに集め、あなたご自身が戦いに出て行くのです。

12 そうして、われわれは彼が見つかるどこかの場所で彼を襲い、地に降りる露のように彼の上に降りかかります。彼も、彼とともにいるすべての男たちも、われわれは一人も残しません。

13 さらに、もし彼が町に退き込んだなら、全イスラエルはその町に縄をかけ、われわれはそこを川へ引きずり込み、一つの小石も見つからないようにします。」

14 アブサロムとイスラエルのすべての男たちは言った。「アルキ人フシャイの助言は、アヒトフェルの助言よりも良い。」主がアブサロムに悪をもたらすために、アヒトフェルの良い助言を打ち破るように主が定められていたからである。

15 それからフシャイは、祭司ツアドクとアビアタルに言った。「アヒトフェルはアブサロムとイスラエルの長老たちにこのように助言し、わたしはこのように助言しました。」

16 ですから今すぐ人を遣わして、ダビデに告げて言いなさい。『今夜は荒野の浅瀬で夜を過ごしてはなりません。どうしても渡らなければなりません。王と、彼とともにいるすべての民が飲み込まれてしまわないようにするためです。』」

17 さて、ヨナタンとアヒマアツはエン・ロゲルのそばにとどまっていた。はしためが行って彼らに告げ、彼らは行ってダビデ王に告げることになっていた。彼らは町に入るのを見られてはならなかったからである。

18 しかし一人の若者が彼らを見て、アブサロムに告げた。そこで二人は急いで立ち去り、バフリムのある男の家に来た。その男の庭には井戸があり、彼らはそこに下って行った。

19 その女は覆いを取って井戸の口の上に広げ、その上に砕いた穀物を広げたので、何も知られなかった。

20 アブサロムのしもべたちがその家へ女のところに来て、「アヒマアツとヨナタンはどこにいるのか」と言った。

女は彼らに言った。「彼らは水の流れを渡って行きました。」

彼らは捜したが、見つけることができなかったの
で、エルサレムに帰った。

21 彼らが去った後、二人は井戸から上がり、行ってダビデ王に告げた。彼らはダビデに言った。
「起きて、急いで水を渡ってください。アヒトフェルがあなたに対してこのように助言したからです。」

22 そこでダビデと、彼とともにいたすべての民は起き上がり、ヨルダン川を渡った。
朝の光が射すところには、ヨルダン川を渡っていない者は一人も残っていなかった。

23 アヒトフェルは自分の助言が受け入れられなかったのを見ると、自分のろばに鞍を置き、立ち上がって自分の町にある自分の家に帰り、家を整え、首を吊って死んだ。そして彼は自分の父の墓に葬られた。

24 それからダビデはマハナインに来た。アブサロムは、彼と、彼とともにいたイスラエルのすべての男たちと一緒にヨルダン川を渡った。

25 アブサロムはヨアブの代わりにアマサを軍の長とした。さて、アマサはイスラエル人イト

ラという名の男の息子であり、イトラはナハシュの娘でヨアブの母ツェルヤの姉妹であるアビガイルのところにいった者であった。

²⁶ イスラエルとアブサロムはギレアデの地に陣を敷いた。

²⁷ ダビデがマハナインに来たとき、アンモンの子らのラバから来たナハシュの息子ショビと、ロ・デバルから来たアミエルの息子マキルと、ロゲリムから来たギレアデ人バルジライが、

²⁸ 寝台、鉢、土の器、小麦、大麦、麦粉、炒り麦、豆、レンズ豆、炒り豆、

²⁹ はちみつ、凝乳、羊、牛のチーズを、ダビデと彼とともにいた民が食べるために持って来た。彼らが、「民は荒野で飢え、疲れ、渴いている」と言ったからである。

18

¹ ダビデは自分とともにいる民を数え、彼らの上に千人の長と百人の長を任命した。

² ダビデは民を送り出した。三分の一はヨアブの手に、三分の一はツェルヤの息子でヨアブの兄弟であるアビシャイの手に、三分の一はガテ人イタイの手に委ねた。王は民に言った。「わたしも必ず、あなたがたとともに出て行く。」

³ しかし民は言った。「あなたは出て行ってはなりません。もしわれわれが逃げ去っても、彼らはわれわれを気に留めないからです。もしわれわれの半分が死んでも、彼らはわれわれを気に留めません。しかし、あなたはわれわれの一万人数分の価値があります。ですから今、あなたは町の中からわれわれを助ける備えをしてくださる方が良いでしょう。」

⁴ 王は彼らに言った。「わたしはあなたがたに最も良いと思われることをしよう。」王は門のそ

ばに立ち、すべての民は百人ずつ、千人ずつ出て行った。

⁵王はヨアブとアビシャイとイタイに命じて言った。「わたしのために、あの若者アブサロムを優しく扱ってくれ。」王がアブサロムについてすべての長たちに命じたとき、すべての民はそれを聞いていた。

⁶こうして民はイスラエルに立ち向かうために野に出て行き、戦いはエフライムの森で行われた。

⁷イスラエルの民はそこでダビデのしもべたちの前で打たれ、その日、そこで二万人という大殺戮があった。

⁸戦いはそこからその全地方の面に広がり、その日、剣が食い尽くした以上の民を森が食い尽くした。

⁹アブサロムはたまたまダビデのしもべたちに出くわした。アブサロムは自分の騾馬に乗っていたが、その騾馬が大きな榎の木の太い枝の下に入り込んだとき、彼の頭がその榎の木に引っかかり、彼は天と地の間に宙づりになった。そして彼の下にいた騾馬は通り過ぎで行った。

¹⁰ある男がそれを見て、ヨアブに告げて言った。「見よ、わたしはアブサロムが榎の木にぶら下がっているのを見ました。」

¹¹ヨアブは自分に告げた男に言った。「見よ、あなたはそれを見たのに、なぜそこで彼を地面に打ち倒さなかったのか。わたしはあなたに銀十枚と帯一つを与えたい。」

¹²男はヨアブに言った。「たとえ千枚の銀をわたしの手に受け取ったとしても、わたしは王の息子に向かって手を伸ばしたりはしません。われわれの聞いているところで、王があなたとアビシャイと

イタイに、『だれもあの若者アブサロムに手を下さないように注意せよ』と命じられたからです。

13 もしわたしが彼の命に対して偽りを行っていたなら（王に隠されている事はありませんから）、あなた自身がわたしに敵対していたでしょう。」

14 するとヨアブは、「わたしはあなたと一緒にこのように待っているわけにはいかない」と言った。彼は手に三本の槍を取り、アブサロムがまだ櫟の木の中ほどで生きている間に、それらをアブサロムの心臓に突き刺した。

15 ヨアブの武器を持つ十人の若者がアブサロムを囲んで打ち、彼を殺した。

16 ヨアブは角笛を吹き鳴らした。すると民はイスラエルを追うのから戻って来た。ヨアブが民を引き止めたからである。

17 彼らはアブサロムを取り、森の中の大きな穴に投げ込み、彼の上に非常に大きな石の塚を積み上げた。それから全イスラエルは逃げ、それぞれ自分の天幕に帰った。

18 さて、アブサロムは生きている間に、王の谷にある柱を取って自分のために立てていた。「わたしの名を記憶にとどめる息子がわたしにはいない」と言ったからである。彼はその柱を自分の名にちなんで呼んだ。それは今日に至るまで、アブサロムの記念碑と呼ばれている。

19 それからツアドクの息子アヒマアツは言った。「どうか今、わたしを走らせて、主が王の敵に復讐してくださったという知らせを王に伝えさせてください。」

20 ヨアブは彼に言った。「あなたは今日、知らせを運ぶ者となつてはならない。知らせは別の日に運びなさい。しかし今日、あなたは知ら

せを運んではならない。王の息子が死んだからだ。」

21 それからヨアブはクシュ人に言った。「行って、あなたの見たことを王に告げよ！」クシュ人はヨアブに身をかがめ、走って行った。

22 それからツアドクの息子アヒマアツは、再びヨアブに言った。「しかし何が起ころうとも、どうかわたしにも、クシュ人の後を走らせてください。」

ヨアブは言った。「わが息子よ、なぜあなたは走りたいのか。その知らせのために報いを受けることはないのだぞ。」

23 「しかし何が起ころうとも、わたしは走ります」と彼は言った。

彼は「走れ！」と言った。そこでアヒマアツは平原の道を走り、クシュ人を追い越した。

24 さて、ダビデは二つの門の間に座っていた。見張りは城壁の上の門の屋上に上り、目を上げて見ると、見よ、一人の男が一人で走って来た。

25 見張りは大声で叫び、王に告げた。

王は言った。「もし彼が一人なら、彼の口に知らせがある。」

彼はますます近づいて来た。

26 見張りはもう一人の男が走って来るのを見た。そして見張りは門番に叫んで、「見よ、一人の男が一人で走って来る！」と言った。

王は言った。「彼も知らせを持って来る。」

27 見張りは言った。「一番目の者の走りは、ツアドクの息子アヒマアツの走りのように思われます。」

王は言った。「彼は良い男だから、良い知らせを持って来る。」

28 アヒマアツは王に呼びかけて、「すべて平安です」と言った。彼は王の御前で地に顔をすりつけて身をかがめ、「あなたの神、主は幸いである。わ

が君、王に向かって手を上げた者たちを引き渡してくださった」と言った。

²⁹ 王は言った。「あの若者アブサロムは無事か。」

アヒマアツは答えた。「ヨアブが王のしもべ、すなわちあなたのしもべであるわたしを遣わしたとき、わたしは大きな騒ぎを見ましたが、それが何であるかは知りません。」

³⁰ 王は言った。「わきに退いて、ここに立っていなさい。」彼はわきに退き、そこに立っていた。

³¹ 見よ、クシュ人が来た。クシュ人は言った。「わが君、王に良い知らせがあります。主が今日、あなたに立ち向かって起きたすべての者に復讐してくださったからです。」

³² 王はクシュ人に言った。「あの若者アブサロムは無事か。」

クシュ人は答えた。「わが君、王の敵たち、またあなたに悪を行うために立ち向かって起きるすべての者たちが、あの若者のようになりますように。」

³³ 王は激しく心を動かされ、門の上の部屋に上って行って泣いた。彼は歩きながらこう言った。「わが息子アブサロムよ！わが息子、わが息子アブサロムよ！わたしがあなたの代わりに死ねばよかったものを。アブサロム、わが息子、わが息子よ！」

19

¹ 人々はヨアブに、「見よ、王はアブサロムのために泣き悲しんでいる」と告げた。

² その日の勝利は、すべての民にとって喪に変わった。その日、「王は自分の息子のために悲しんでおられる」と人々が聞いたからである。

³ 戦いで逃げるときに恥じ入る人々がこっそり逃げるように、民はその日、こっそりと町に入った。

4 王は自分の顔を覆い、王は大声で叫んだ。「わが息子アブサロムよ、アブサロム、わが息子、わが息子よ！」

5 ヨアブは家に入って王のところに来て、言った。「あなたは今日、あなたのすべてのしもべたちの顔を恥じさせました。彼らは今日、あなたの命と、あなたの息子や娘の命、あなたの妻たちの命、そしてあなたのそばめたちの命を救ったのです。

6 それなのに、あなたは自分を憎む者を愛し、自分を愛する者を憎んでおられます。君主たちもしもべたちも、あなたには何でもないことを、あなたは今日宣言されました。もしアブサロムが生きていて、今日われわれがみな死んでいたなら、あなたはそれを大いに喜ばれたであろうと、今日わたしにはわかります。

7 ですから今、起きて外に出、あなたのしもべたちを慰める言葉を語ってください。主にかけて誓います。もしあなたが外に出ないなら、今夜は一人もあなたとともにとどまる者はいません。それは、あなたの若いころから今日まであなたに降りかかったすべての悪よりも、あなたにとって悪いこととなります。」

8 そこで王は立ち上がり、門に座った。人々はすべての民に、「見よ、王が門に座っておられる」と告げた。

すべての民は王の前に来た。さて、イスラエルはそれぞれ自分の天幕に逃げ帰っていた。

9 イスラエルのすべての部族の至る所で、すべての民が争って言った。「王はわれわれを敵の手から救い出し、ペリシテ人の手からわれわれを救い出してくださったが、今、アブサロムのゆえにこの地から逃げ去ってしまわれた。

10 われわれがわれわれの上に油を注いだアブサロムは、戦いで死んだ。それなら今、なぜ王を連れ戻すことについて、あなたがたはひと言も語らないのか。」

11 ダビデ王は祭司ツアドクとアビアタルに人を遣わして言った。「ユダの長老たちに語って言いなさい。『なぜ、あなたがたは王をその家に連れ戻すのが一番最後になっているのか。全イスラエルの言葉が王のところに、彼をその家に帰らせるために届いているのに。』

12 あなたがたはわたしの兄弟であり、わたしの骨、わたしの肉である。それなのに、なぜ王を連れ戻すのが一番最後になっているのか。』

13 またアマサに言いなさい。『あなたはわたしの骨、わたしの肉ではないか。もしあなたが、ヨアブに代わって常にわたしの前で軍の長とならないなら、神がわたしにそのように行い、さらに増し加えられるように。』」

14 彼がユダのすべての男たちの心を一つの心のように傾けさせたので、彼らは人を王に遣わして、「あなたと、あなたのすべてのしもべたちとともにお帰りください」と言った。

15 こうして王は帰途につき、ヨルダン川に着いた。ユダは王を迎えに行き、王にヨルダン川を渡らせるためにギルガルに来ていた。

16 バフリム出身のベニヤミン人でゲラの息子シメイは急ぎ、ユダの男たちとともにダビデ王を迎えるために下って来た。

17 彼とともに一千人のベニヤミンの男たちがおり、サウルの家のしもべツィバも、その十五人の息子と二十人のしもべとともに彼と一緒にいた。彼らは王の前を通り、ヨルダン川を渡った。

18 王の家族を渡らせ、王が良いと思うことを行うために、渡し舟が渡った。ゲラの息子シメイは、王がヨルダン川を渡ったとき、王の前にひれ伏した。

19 彼は王に言った。「わが君が、わたしに咎を負わせられませんように。わが君、王がエルサレムから出て行かれた日に、あなたのしもべがよこしまに行ったことを、どうか思い出されませんように。王がそれを心に留められませんように。

20 あなたのしもべは自分が罪を犯したことを知っているからです。それゆえ、見よ、わたしは今日、わが君、王を迎えに下るために、ヨセフの全家の中で一番に来ました。」

21 しかしツエルヤの息子アビシャイは答えた。「主が油注がれた者を呪ったのだから、この事でシメイは殺されるべきではないか。」

22 ダビデは言った。「ツエルヤの息子たちよ、わたしがあなたがたと何のかかわりがあるだろうか。あなたがたは今日、わたしの敵となるのか。今日、イスラエルにおいてだれか殺される者があってよいだろうか。今日わたしは、自分がイスラエルの上の王であることを知っているではないか。」

23 王はシメイに、「あなたは死なない」と言った。王は彼に誓った。

24 サウルの息子メフィボシエテは王を迎えるために下って来た。王が去った日から彼が平安のうちに家に帰る日まで、彼は足の手入れもせず、ひげも整えず、服も洗っていなかった。

25 彼が王を迎えるためにエルサレムに来たとき、王は彼に言った。「メフィボシエテよ、なぜわたしと一緒に行かなかったのか。」

26 彼は答えた。「わが君、王よ、わたしのしもべがわたしを欺いたのです。あなたのしもべは足が不

自由なので、『自分のためにろばに鞍を置き、それに乗って王とともに行こう』とあなたのしもべは言ったからです。

27 彼はわが君、王にあなたのしもべを中傷しました。しかし、わが君、王は神の使いのようであられます。ですから、あなたの御目に良いと思うことを行ってください。

28 わたしの父の家は皆、わが君、王の前では死んだ者にすぎなかったのに、あなたはご自分の食卓で食べる者たちの中にあなたのしもべを置かれたからです。ですから、わたしにこれ以上王に叫び求めるどんな権利がまだあるでしょうか。」

29 王は彼に言った。「なぜあなたは自分のことをこれ以上話すのか。わたしは、あなたとツィバで土地を分けよと言っている。」

30 メフィボシェテは王に言った。「はい、彼にすべてを取らせてください。わが君、王が平安のうちにご自分の家に帰って来られたからです。」

31 ギレアデ人バルジライはロゲリムから下って来た。彼は王にヨルダン川を渡らせるために、王とともにヨルダン川を渡った。

32 さて、バルジライは非常に年老いた男で、八十歳であった。王がマハナジムにとどまっていた間、彼は王に食物を提供した。彼は非常に偉大な男であったからである。

33 王はバルジライに言った。「わたしと一緒に渡って来なさい。エルサレムで、わたしのもとであなたを養おう。」

34 バルジライは王に言った。「わたしの生涯の日々はあとどれほどでしょうか。王とともにエルサレムに上って行くことが、どうしてできるでしょうか。」

35 わたしは今日八十歳です。良いことと悪いことを見分けることができるでしょうか。あなたのしもべは、自分の食べるものや飲むものの味がわかるでしょうか。歌う男や歌う女の声はまだ聞こえるでしょうか。それなのに、なぜあなたのしもべが、これ以上わが君、王の重荷にならなければならないのでしょうか。

36 あなたのしもべは、ただ王とともにヨルダン川を渡ろうとしているだけです。王はなぜ、そのような報いでわたしに報いられるのでしょうか。

37 どうか、あなたのしもべを再び引き返させてください。わたしが自分の町で、父と母の墓のそばで死ぬるように。しかし見よ、あなたのしもべキムハムがいます。彼をわが君、王とともに渡らせてください。そして、あなたに良いと思われることを彼に行ってください。」

38 王は答えた。「キムハムはわたしとともに渡って行く。わたしはあなたに良いと思われることを彼に行おう。あなたがわたしに求めることは何でも、あなたのためにそれを行おう。」

39 すべての民はヨルダン川を渡し、王も渡った。それから王はバルジライに口づけし、彼を祝福した。そして彼は自分の場所へ帰って行った。

40 こうして王はギルガルへ渡し、キムハムも彼とともに渡った。ユダのすべての民、またイスラエルの民の半分も王を渡らせた。

41 見よ、イスラエルのすべての男たちが王のところに来て、王に言った。「なぜわれわれの兄弟であるユダの男たちがあなたを盗み去り、王とその家族、また王とともにいるダビデのすべての部下たちにヨルダン川を渡らせたのですか。」

42 ユダのすべての男たちはイスラエルの男たちに答えた。「王がわれわれの近親の者だからだ。そ

れなのに、なぜあなたがたはこの事について怒るのか。われわれは少しでも王の費用で食べたろうか。あるいは、彼がわれわれに何か贈り物を与えただろうか。」

⁴³ イスラエルの男たちはユダの男たちに答えて言った。「われわれは王に十の分け前を持っている。また、われわれはあなたがたよりもダビデに多くの権利を持っている。それなのに、なぜあなたがたはわれわれを軽んじたのか。われわれの王を連れ戻すことについて、われわれの助言が最初に求められるべきではなかったのか。」

ユダの男たちの言葉は、イスラエルの男たちの言葉よりも激しかった。

20

¹ そこにたまたま一人のならず者がおり、その名はベニヤミン人ビクリの息子シェバといった。彼は角笛を吹き鳴らして言った。「われわれはダビデの中に何の分け前も持っていない。またエッサイの息子の中に何の相続地も持っていない。イスラエルよ、それぞれ自分の天幕へ帰れ！」

² そこでイスラエルのすべての男たちはダビデに従うのをやめて上り、ビクリの息子シェバに従った。しかしユダの男たちは、ヨルダン川からエルサレムに至るまで、自分たちの王にしっかりとついて行った。

³ ダビデはエルサレムの自分の家に来た。王は家を守るために残しておいた自分のそばめである十人の女を取り、彼女たちを監禁して養ったが、彼女たちのところには入らなかった。こうして彼女たちは死ぬ日まで閉じ込められ、やもめとして生きた。

4 それから王はアマサに言った。「三日以内にユダの男たちをわたしのところに呼び集め、あなた自身もここにいなさい。」

5 そこでアマサはユダの男たちを呼び集めるために出かけて行った。しかし、王が彼に定めた期限よりも遅れた。

6 ダビデはアビシャイに言った。「今やビクリの子シエバは、アブサロムよりもわれわれに多くの悪を行うだろう。あなたの主君のしもべたちを連れて、彼を追跡せよ。彼が防備の町々を得て、われわれの目から逃れ去ることのないように。」

7 ヨアブの部下たちは、ケレテ人、ペレテ人、そしてすべての勇士たちとともに彼の後を追って出て行った。彼らはビクリの子シエバを追跡するために、エルサレムから出て行った。

8 彼らがギベオンにある大きな石のところに来たとき、アマサが彼らを迎えに来た。ヨアブは身に着けた戦いの服を着ており、その上には鞘に収めた剣を腰に結びつけた帯があった。彼が進み出たとき、その剣が抜け落ちた。

9 ヨアブはアマサに、「わたしの兄弟よ、平安か」と言った。ヨアブは右手でアマサのひげをつかみ、彼に口づけしようとした。

10 しかしアマサは、ヨアブの手にある剣に注意を払わなかった。そこでヨアブはそれで彼の腹を打ち、彼のはらわたを地面に流し出させた。彼を二度打つことはなかった。そして彼は死んだ。

ヨアブとその兄弟アビシャイは、ビクリの子シエバを追跡した。

11 ヨアブの若者の一人が彼のそばに立って言った。「ヨアブに好意を持つ者、ダビデに味方す

る者は、ヨアブに従え！」

12 アマサは大路の真ん中で血の中に転がっていた。その男は、すべての民が立ち止まるのを見ると、アマサを大路から野へ運び出し、彼の上に服を投げかけた。彼のそばを通る者が皆、立ち止まるのを見たからである。

13 彼が大路から除かれると、すべての民はヨアブの後に続いて進み、ビクリの息子シェバを追跡した。

14 シェバはイスラエルのすべての部族を通して、アベル、ベテ・マアカ、そしてすべてのベリ人のところへ行った。彼らは呼び集められ、彼らもまた彼の後について行った。

15 彼らはやって来て、ベテ・マアカのアベルで彼を包囲し、町に向かって土塁を築き上げた。それは外塁に達して立った。そしてヨアブとともにいたすべての民は、城壁を打ち倒そうと攻撃した。

16 そのとき、町の中から一人の知恵のある女が大声で叫んだ。「聞いてください、聞いてください！ どうかヨアブに、『ここに近づいてください。わたしがあなたとお話しできるよう』と言ってください。」

17 彼は彼女に近づいた。女は、「あなたはヨアブですか」と言った。

彼は「そうだ」と答えた。

それから彼女は彼に言った。「あなたのはしための言葉を聞いてください。」

彼は「聞いている」と答えた。

18 それから彼女は語って言った。「昔、人々は『必ずアベルで助言を求めよ』と言ったものでした。そのようにして彼らは事を収めたのです。」

19 わたしはイスラエルにおいて平和で忠実な者の一人です。あなたはイスラエルの母な

る町を滅ぼそうとしておられます。なぜあなたは主の相続地を飲み込もうとされるのですか。」

20 ヨアブは答えた。「決して、そのようなことはない。わたしが飲み込んだり滅ぼしたりすることは、決してない。

21 事はそうではない。エフライムの山地出身の、ビクリの息子シェバという名の男が、王に対して、すなわちダビデに対して手を上げたのだ。彼だけを引き渡せ。そうすればわたしは町から去ろう。」

女はヨアブに言った。「見よ、彼の首は城壁越しにあなたに投げられるでしょう。」

22 それから女は自分の知恵をもってすべての民のところへ行った。彼らはビクリの息子シェバの首をはね、それを外のヨアブに投げた。彼は角笛を吹き鳴らし、彼らは町から散って、それぞれ自分の天幕へ帰った。それからヨアブはエルサレムの王のもとに帰った。

23 さて、ヨアブはイスラエルの全軍の長であった。エホヤダの息子ベナヤはケレテ人とペレテ人の長であり、

24 アドラムは強制労働に服する者たちの長であり、アヒルデの息子ヨシャファテは記録官であった。

25 シェワは書記官であり、ツアドクとアビアタルは祭司であった。

26 そしてヤイル人イラもまたダビデの主要な大臣であった。

21

1 ダビデの時代に、三年続きのききんがあった。ダビデが主の御顔を求めると、主は言われた。

「これはサウルのため、また彼がギベオン人を殺したので、血を流した彼の家のためである。」

²王はギベオン人を呼び寄せて彼らに言った（ギベオン人はイスラエルの子らではなく、アモリ人の残りの者であった。イスラエルの子らは彼らに誓っていたが、サウルはイスラエルとユダの子らへの熱心から、彼らを殺そうとしていたのである）。

³ダビデはギベオン人に言った。「わたしはあなたがたのために何をすればよいのか。何をもって贖罪をすれば、あなたがたは主のゆずりの地を祝福してくれるのか。」

⁴ギベオン人は彼に言った。「われわれとサウル、またその家との間の問題は、銀や金のことはありません。また、われわれがイスラエルの中でだれかを死なせることでもありません。」

彼は言った。「あなたがたの言うことなら、何でもあなたがたのために行おう。」

⁵彼らは王に言った。「われわれを滅ぼし尽くし、イスラエルのどの領土にも残れないようにと企てたあの人、

⁶その息子たちのうち七人を、われわれに引き渡してください。主に選ばれた者サウルのギブアで、われわれは主の御前に彼らを吊るします。」

王は言った。「わたしは彼らを引き渡そう。」

⁷しかし王は、ダビデとサウルの息子ヨナタンとの間にあった主への誓いのゆえに、サウルの息子ヨナタンの息子メフィボシエテを惜しんだ。

⁸王は、アヤの娘リツパがサウルに産んだ二人の息子アルモニとメフィボシエテ、またサウルの娘メラブがメホラ人バルジライの息子アドリエルに産んだ五人の息子を捕らえた。

9 彼は彼らをギベオン人の手に引き渡し、ギベオン人は主の御前の山で彼らを吊るした。こうして彼ら七人はともに倒れた。彼らは収穫の時期、すなわち大麦の収穫が始まる最初の日々に死に渡された。

10 アヤの娘リツパは粗布を取り、収穫の初めから空から彼らの上に水が注がれるまで、それ自分のために岩の上に広げた。彼女は昼には空の鳥が、夜には野の獣が彼らの上に下りることを許さなかった。

11 サウルのそばめであったアヤの娘リツパがしたことが、ダビデに告げられた。

12 ダビデは行って、サウルの骨とその息子ヨナタンの骨を、ヤベシュ・ギレアデの人々から受け取った。彼らは、ペリシテ人がギルボアでサウルを殺した日に、ペリシテ人が二人を吊るしたベテ・シヤンの広場から、それらを盗み出していたのである。

13 彼はそこからサウルの骨とその息子ヨナタンの骨を運び上った。人々は吊るされた者たちの骨も集めた。

14 彼らはサウルとその息子ヨナタンの骨を、ベニヤミンの地ツエラにある、サウルの父キシユの墓に葬った。彼らは王が命じたすべてのことを行なった。その後、神はその地のための祈りに答えられた。

15 ペリシテ人は再びイスラエルと戦った。ダビデは自分のしもべたちとともに下って行き、ペリシテ人と戦ったが、疲れ果てた。

16 巨人の息子たちの一人であるイシュビ・ベノブは、ダビデを殺そうとした。彼の槍の重さは青銅三百シェケル*

* 21:16 21:16 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。三百シェケルは

であり、彼は新しい剣で武装していた。

¹⁷しかし、ツエルヤの息子アビシャイがダビデを助け、そのペリシテ人を打って殺した。そのとき、ダビデの部下たちは彼に誓って言った。「あなたはもう、われわれとともに戦いに出て行ってはなりません。イスラエルのともしびを消さないためです。」

¹⁸この後、ゴブで再びペリシテ人との戦いがあった。そのとき、フシャ人シベカイが、巨人の息子たちの一人であるサフを殺した。

¹⁹さらにゴブでペリシテ人との戦いがあった。ベツレヘム人ヤアレ・オレギムの息子エルハナンが、ガテ人ゴリアテの兄弟を殺した。その槍の柄は機織りの巻き棒のようであった。

²⁰さらにガテでも戦いがあった。そこには非常に背の高い男がいた。彼にはそれぞれの手に六本の指、それぞれの足に六本の指があり、その数は二十四本であった。彼もまた巨人の子孫であった。

²¹彼がイスラエルをそしったので、ダビデの兄弟シメイの息子ヨナタンが彼を殺した。

²²これら四人はガテで巨人の子孫として生まれた者たちであり、ダビデの手とそのしもべたちの手によって倒れた。

22

¹ダビデは、主が彼をすべての敵の手から、またサウルの手から救い出された日に、この歌の言葉の主に向けて語った。

²彼は言った。

「主はわたしの岩、
わたしの要害、
わたしの救い主、まさにわたしの方です。

- 3 神は、わたしが避け所とするわたしの岩、
わたしの盾、わたしの救いの角、
わたしの高いやぐら、わたしの避け所です。
わたしの救い主よ、あなたはわたしを暴力か
ら救われます。
- 4 ほめたたえられるべき方、主に、わたしは呼ばわ
ります。
こうして、わたしは敵から救われます。
- 5 死の波がわたしを取り囲み、
不敬虔の洪水がわたしを恐れさせました。
- 6 よみ*の綱がわたしを取り巻き、
死の罾がわたしを捕らえました。
- 7 苦しみの中で、わたしは主に呼ばわれました。
まことに、わたしはわたしの神に呼ばわりました。
- 彼はご自分の宮からわたしの声を聞かれ、
わたしの叫びは彼の耳に届きました。
- 8 そのとき、地は揺れ動いて震え、
天の基も震えて揺れ動きました。
彼が怒られたからです。
- 9 彼の鼻から煙が立ち上り、
彼の口から食い尽くす火が出ました。
それによって炭火が燃え上がりました。
- 10 彼はまた、天を垂れて下って来られました。
彼の足の下には暗やみがありました。
- 11 彼はケルブに乗って飛び、
風の翼の上に現れました。
- 12 彼はご自分の周りの闇を隠れ場とされました。
水の集まりと、空の厚い雲とを。
- 13 彼の御前の輝きによって、

* 22:6 22:6 よみ（シェオル）は死者の場所である。

炭火が燃え上がりました。

- 14 主は天から雷を鳴らされ、
いと高き方は御声を発せられました。
- 15 彼は矢を放って、彼らを散らし、
稲妻を放って、彼らをかき乱されました。
- 16 そのとき、海の底が現れ、
世界の基があらわになりました。
主の叱責により、
彼の鼻の息の吹きつけによって。
- 17 彼は高い所から手を伸ばして、わたしを取られました。
わたしを多くの水から引き上げられました。
- 18 彼はわたしの強い敵から、
わたしを憎む者たちから、わたしを救い出されました。
彼らはわたしには強すぎたからです。
- 19 彼らはわたしのわざわいの日にわたしに襲いかかりましたが、
主はわたしの支えでした。
- 20 彼はまた、わたしを広い所に連れ出されました。
彼はわたしを喜ばれたので、わたしを救い出されました。
- 21 主はわたしの義にしたがってわたしに報い、
わたしの手の清さにしたがってわたしに報われました。
- 22 わたしは主の道を守り、
悪を行ってわたしの神から離れることはなかったからです。
- 23 彼のすべての定めはわたしの前にあり、
彼のおきてについて言えば、わたしはそれらから離れませんでした。

- 24 わたしは彼に対して全き者であり、
自分の咎から身を守りました。
- 25 それゆえ、主はわたしの義にしたがって、
彼の御目の前でわたしの清さにしたがっ
て、わたしに報われました。
- 26 あわれみ深い者には、あなたはあわれみ深くあら
れ、
全き人には、あなたは全くあられます。
- 27 清い者には、あなたは清くあられ、
曲がった者には、あなたは賢く立ち向かわれま
す。
- 28 あなたは苦しむ民を救われますが、
高ぶる者には目を留め、彼らを低くされます。
- 29 主よ、あなたはわたしのともしびです。
主はわたしの闇を照らされます。
- 30 あなたによって、わたしは軍勢に向かって走り、
わたしの神によって、城壁を飛び越えます。
- 31 神について言えば、その道は完全です。
主のことは試されています。
彼は、ご自分に避け所を求めるすべて
の者の盾です。
- 32 主のほかに、だれが神でしょうか。
われわれの神のほかに、だれが岩でしょうか。
- 33 神はわたしの強い要害です。
彼はわたしの道を完全なものとされます。
- 34 彼はわたしの足を雌鹿の足のようにし、
わたしを高い所に立たせられます。
- 35 彼は戦いのためにわたしの手を鍛え、
わたしの腕が青銅の弓を引けるようにされま
す。
- 36 あなたはまた、あなたの救いの盾をわたしに与え
られました。

あなたの優しさが、わたしを大いなる者としました。

37 あなたはわたしの足もとの歩みを広くされ、
わたしの足は滑りませんでした。

38 わたしは敵を追いかけて、彼らを滅ぼしました。
彼らが滅び尽くすまで、引き返しませんでした。

39 わたしは彼らを滅ぼし、
彼らを打ち砕きました。
彼らは起き上がることができず、
わたしの足の下に倒れました。

40 あなたは戦いのためにわたしに力を帯びさせ、
わたしに立ち向かう者たちを、わたし
の下に従わせられました。

41 あなたはまた、敵がわたしに背を向けるようにされ、
わたしを憎む者たちを、わたしが断ち切るように
されました。

42 彼らは救いを求めて見回しましたが、救う者はだれもいませんでした。
主に向かって叫んでも、主は彼らに答えられませんでした。

43 そのとき、わたしは彼らを地のちりのように細かく打ち砕き、
通りの泥のように彼らを踏み碎いて、まき散らしました。

44 あなたはまた、わたしの民の争いからわたしを救い出されました。
あなたはわたしを守り、国々の頭とされました。
わたしの知らなかった民がわたしに仕えます。

45 外国人たちはわたしに服従し、

わたしのことを聞くとすぐに、わたしに従います。

- 46 外国人たちは力を失い、
震えながら自分たちの閉じこもった所から出て来ます。

- 47 主は生きておられます。

わたしの岩がほめたたえられますように。
わたしの救いの岩である神があがめられますように。

- 48 神はわたしのために復讐を行い、
諸国の民をわたしの下に従わせられる方です。

- 49 彼はわたしを敵から連れ出してくださいます。

まことに、あなたはわたしに立ち向かう者たちよりも、
わたしを高く上げられます。
あなたはわたしを暴力の人から救い出されます。

- 50 それゆえ、主よ、わたしは国々の間であなたに感謝し、

あなたの御名に賛美を歌います。

- 51 彼はご自分の王に大いなる救いを与え、
ご自分が油を注がれた者に慈しみを示されます。

ダビデとその子孫に、とこしえに。」

23

- 1 さて、これらはダビデの最後の言葉である。

エッサイの息子ダビデのことば。

高く上げられた人のことば。

ヤコブの神に油を注がれた者、

イスラエルの美しい歌い手のことば。

- 2 「主の霊はわたしによって語られた。

その言葉はわたしの舌の上にあった。

- 3 イスラエルの神は言われた。
イスラエルの岩はわたしに語られた。
『人を義をもって治める者、
神を恐れて治める者は、
- 4 太陽が昇る時の朝の光のようであり、
雲のない朝のようであり、
雨の後の澄み切った輝きによって、
地から若草が萌え出る時のようである。』
- 5 わたしの家も神とともにそのようではないか。
神はわたしと永遠の契約を結び、
すべての点で整えられた、確かなものとされた
からである。
それはわたしのすべての救い、すべての願いで
ある。
神はそれを育ててくださらないだろうか。
- 6 しかし、不敬虔な者たちは皆、投げ捨てられ
る茨のようである。
手でつかむことができないからである。
- 7 それらに触れる者は、鉄や槍の柄で武装しなけれ
ばならない。
- 彼らはその場所で火によって完全に焼かれる。」
- 8 これらはダビデが抱えていた勇士たちの名であ
る。隊長たちのかしら、タフケモン人ヨシエブ・バ
シエベテ。彼はエツェン人アディノと呼ばれ、一
度に八百人を殺した。
- 9 彼の次は、アホア人の息子ドダイの息子エレア
ザルであり、ダビデとともにいた三人の勇士の一
人であった。彼らが、戦いのためそこに集まってい
たペリシテ人に立ち向かい、イスラエルの人々
が退いて行ったとき、
- 10 彼は立ち上がり、手が疲れ果て、手が剣に張り
つくまでペリシテ人を打った。主はその日、大いな

る勝利をもたらされた。民はただ戦利品を奪うためだけに、彼の後に戻って来た。

11 彼の次は、ハラル人アゲの息子シャマであった。ペリシテ人が一つの群れとなって集まったところには、レンズ豆が満ちた畑があった。民はペリシテ人の前から逃げた。

12 しかし彼はその畑の真ん中に立ち、そこを守ってペリシテ人を殺した。そして主は大いなる勝利をもたらされた。

13 三十人の長たちのうち三人が下って行き、収穫の時期にアドラムのほら穴にいるダビデのところに来た。ペリシテ人の一隊はレファイムの谷に陣を敷いていた。

14 その時、ダビデは要害におり、ペリシテ人の守備隊はベツレヘムにあった。

15 ダビデは切望して言った。「ああ、だれか門のそばにあるベツレヘムの井戸の水を飲ませてくれないか。」

16 すると、その三人の勇士はペリシテ人の陣営を突き破り、門のそばにあるベツレヘムの井戸から水を汲み、それをダビデのところに持ってきて来た。しかし彼はそれを飲もうとはせず、主の御前に注ぎ出した。

17 彼は言った。「主よ、わたしがこのようなことをすることは、決してあり得ません。これは、命をかけて行った男たちの血ではありませんか。」それゆえ、彼はそれを飲もうとはしなかった。三人の勇士はこれらのことを行ったのである。

18 ツェルヤの息子ヨアブの兄弟アビシャイは、その三人の長であった。彼は自分の槍を三百人に向けて振るい、彼らを殺し、三人の間で名を上げた。

19 彼は三人のうちで最も誉れ高い者ではなかったか。それゆえ、彼は彼らの隊長となった。しかし、

彼は最初の三人には及ばなかった。

²⁰ カブツエルの勇士の子、エホヤダの息子ベナヤは、力あるわざを行った人であった。彼はモアブのアリエルの二人の息子を殺した。また、雪の日に下って行き、穴の中で一頭の獅子を殺した。

²¹ 彼は大柄なエジプト人を殺した。そのエジプト人の手には槍があったが、ベナヤは杖を持って彼のもとに下って行き、エジプト人の手から槍を奪い取り、その槍で彼を殺した。

²² エホヤダの息子ベナヤはこれらのことを行い、三人の勇士の間で名を上げた。

²³ 彼は三十人よりも誉れ高かったが、最初の三人には及ばなかった。ダビデは彼を自分の護衛の長とした。

²⁴ ヨアブの兄弟アサエルは三十人の一人であった。ベツレヘムのドドの息子エルハナン、

²⁵ ハロデ人シャマ、ハロデ人エリカ、

²⁶ パルティ人ヘレツ、テコア人イケシュの息子イラ、

²⁷ アナトテ人アビエゼル、フシャ人メブナイ、

²⁸ アホア人ツアルモン、ネトファ人マハライ、

²⁹ ネトファ人バアナの息子ヘレブ、ベニヤミンの子らのギブア出身のリバイの息子イタイ、

³⁰ ピルアトン人ベナヤ、ガアシュの谷のヒダイ、

³¹ アラバ人アビ・アルボン、バフルム人アズマベテ、

³² シャアルボン人エリアバ、ヤシェンの息子たち、ヨナタン、

³³ ハラル人シャマ、アラル人シャルルの息子アヒアム、

³⁴ マアカ人の息子アハスバイの息子エリフェレテ、ギロ人アヒトフェルの息子エリアム、

³⁵ カルメル人ヘツロ、アルブ人パアライ、

- 36 ツォバのナタンの息子イガル、ガド人バニ、
37 アンモン人ツエレク、ベエロテ人ナハライ。こ
れらはツエルヤの息子ヨアブの武器を持つ者たちで
あつた。
38 イテル人イラ、イテル人ガレブ、
39 ヘテ人ウリヤ。合わせて三十七人。

24

- 1 主の怒りが再びイスラエルに対して燃え上が
り、主は彼らに向かってダビデを動かし、「行っ
て、イスラエルとユダを数えよ」と言われた。
2 王は、自分とともにいた軍の長ヨアブに言っ
た。「さあ、ダンからベエルシェバに至るまで、イ
スラエルのすべての部族を行き巡り、民を数えなさ
い。わたしが民の総数を知るためである。」
3 ヨアブは王に言った。「あなたの神、主が、
民がどれほど多くても、その数を百倍に増し加えて
くださいますように。そして、わが君、王の目がそ
れをご覧になりますように。しかし、なぜわ
が君、王はこの事を喜ばれるのですか。」
4 それにもかかわらず、王の言葉はヨアブ
と軍の長たちに打ち勝った。ヨアブと軍の長たち
は、イスラエルの民を数えるために王の前か
ら出て行った。
5 彼らはヨルダン川を渡り、アロエル、すなわち
ガドの谷の中ほどにある町の右側に陣を敷き、ヤゼ
ルへ向かった。
6 それから彼らはギレアデに行き、タフティム・
ホデシの地へ行った。また、ダン・ヤアン
へ行き、シドンの周りを巡り、
7 ツロの要害へ行き、ヒビ人とカナン人のすべての
の町々へ行った。そしてユダの南、ベエルシェバ
へ出て行った。

8 こうして彼らは全土を行き巡り、九か月と二十日の終わりにエルサレムに来た。

9 ヨアブは人口調査で数えた民の総数を王に報告した。イスラエルには剣を抜く勇敢な男たちが八十万人おり、ユダの男たちは五十万人であった。

10 民を数えた後、ダビデの心は彼を責めた。ダビデは主に言った。「わたしは自分のしたことで大きな罪を犯しました。しかし今、主よ、どうか、あなたのしもべの咎を取り除いてください。わたしは非常に愚かなことをしたからです。」

11 朝、ダビデが起き上がったとき、主のことが、ダビデの先見者である預言者ガドに臨んで言った。

12 「行ってダビデに語れ。『主はこう言われる。『わたしはあなたに三つのことを示す。そのうちの一つを選びなさい。わたしがそれをあなたに行うためである。』』」

13 そこでガドはダビデのところに来て、彼に告げて言った。「あなたの地に七年間のききんが来るのがよいでしょうか。それとも、敵があなたを追う間、あなたが敵の前から三か月間逃げるのがよいでしょうか。それとも、あなたの地に三日間の疫病があるのがよいでしょうか。今、考えて、わたしを遣わされた方にどのような返事を返すべきか答えてください。」

14 ダビデはガドに言った。「わたしは非常に苦しんでいる。どうか、われわれを主の手に陥らせてほしい。主のあわれみは大きいからだ。わたしを人の手に陥らせないでほしい。」

15 そこで主は、朝から定められた時までイスラエルに疫病を送られた。ダンからベエルシェバに至るまで、民のうち七万人が死んだ。

16 御使いがエルサレムに向かって手を伸ばし、それを滅ぼそうとしたとき、主はそのわざわいを思い直し、民を滅ぼしていた御使いに言われた。「もう十分だ。今、あなたの手を引け。」主の御使いは、エブス人アラウナの打ち場のそばにいた。

17 ダビデは民を打った御使いを見たとき、主に語って言った。「見よ、罪を犯し、悪を行ったのはわたしです。しかし、この羊たちが何をしたというのでしょうか。どうか、あなたの手をわたしと、わたしの父の家に向けてください。」

18 その日、ガドはダビデのところに来て、彼に言った。「上って行き、エブス人アラウナの打ち場に、主のための祭壇を築きなさい。」

19 ダビデは、主が命じられたとおりに、ガドの言葉にしたがって上って行った。

20 アラウナが見渡すと、王とそのしもべたちが彼の方へやって来るのが見えた。そこでアラウナは出て行き、顔を地に伏せて王の前にひれ伏した。

21 アラウナは言った。「なぜ、わが君、王はしもべのところに來られたのですか。」

ダビデは言った。「あなたの打ち場を買い取り、主のために祭壇を築くためだ。そうすれば、この疫病が民を苦しめるのを止められる。」

22 アラウナはダビデに言った。「わが君、王が良いと思われるものを取って、ささげてください。見よ、全焼のささげ物のための牛、薪のための打穀機と牛のくびきがあります。」

23 王よ、アラウナはこれらすべてを王に差し上げます。」アラウナは王に言った。「あなたの神、主があなたを受け入れてくださいますように。」

24 王はアラウナに言った。「いや、わたしは必ず代価を払って、あなたからそれを買取る。」

費用のかからない全焼のささげ物を、わたしの神、主にささげることはしない。」こうしてダビデは、その打ち場と牛を銀五十シェケル*で買い取った。

²⁵ ダビデはそこに主のための祭壇を築き、全焼のささげ物と和解のいけにえをささげた。こうして主はその地のための願いを聞き入れられ、疫病はイスラエルから取り除かれた。

* **24:24 24:24** 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。五十シェケルは

フリーダム・バイブル
**The Holy Bible in the Japanese Language, Freedom
Bible translation**

Public Domain

Language: 日本語 (Japanese)

この聖書翻訳には著作権が設定されていません。この聖書翻訳の公式な配布元は eBible.org です。これは翻訳の草案です。この聖書翻訳をより良いものにするため、改善のご提案を ebible.org+jpnm@gmail.com までお寄せください。

2026-07-08

PDF generated using Haiola and XeLaTeX on 8 Jul 2026 from source files dated 8 Jul 2026

8daadcbf-1b7a-51a2-98ce-7e95a9e95424